

第5章 地区別のまちづくり方針

第5章 地区別のまちづくり方針

5-1 地区別まちづくりの展開方針

区全体の将来都市像の実現に向けて、地域や地区で展開するまちづくりの方向性と道筋を明らかにします。全体構想の土地利用の基本方針や分野別都市づくり方針を踏まえ、地区ごとのまちの特徴、魅力、まちづくりの課題を整理したうえで、まちの将来像と取組方針を示します。

地区区分は、北区基本計画で示されている7地区を基本とします。鉄道と崖線を境に西側が台地部、東側が低地部になっている北区の地形的特徴を踏まえた地区区分です。

一方で、東西の地区を結ぶ赤羽駅周辺や十条・東十条駅周辺・王子駅周辺、田端駅周辺においては、「駅を中心としたコンパクトで活動的な暮らし」の実現に向けて、地区間のまちづくり方針を共有化することが重要です。

そのため、交通の円滑化や都市機能の集積などにより、鉄道と崖線によるまちの分断を和らげ、まちの活力を一層高める都市づくりを推進する観点から、鉄道駅を中心とする3地域の将来都市像を設定し、その実現に向けて地区別のまちづくり方針を戦略的に展開します。

3 地域及び7地区の将来像



5-2 地域・地区区分の設定

鉄道駅を中心に東西地区を一体的に捉えた3地域区分の考え方及び具体的なまちづくりの方向性を示す7地区区分の考え方を示します。

5-3 3地域の将来都市像

東西地区の交流を促進し、鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくりを進めていくための道筋として「3地域の将来都市像」を示します。

5-4 ~ 5-10 7地区のまちづくり方針

まちの
今を
把握
する

(1) まちの特徴

ひと：人口や世帯に関して、近年の動向や将来推計について整理します。

なりたち：これまでの市街地の形成に関する概略を整理します。

まちの魅力：各地区らしさを形成する主なまちの魅力要素について整理します。

各地区によって異なる特徴を際立たせるため、主なものを示します。

(2) まちづくりの課題

まちの特徴や魅力を踏まえ、魅力を磨き上げ、問題点を解消するために取り組むべき「まちづくりの課題」を示します。

まちの
今後を
描く

(3) まちの将来像

まちづくりの課題を解決することで実現を目指す「まちの将来像」を示します。

(4) 取組方針

土地利用、分野別都市づくりの方針に基づく各地区の取組みを示します。

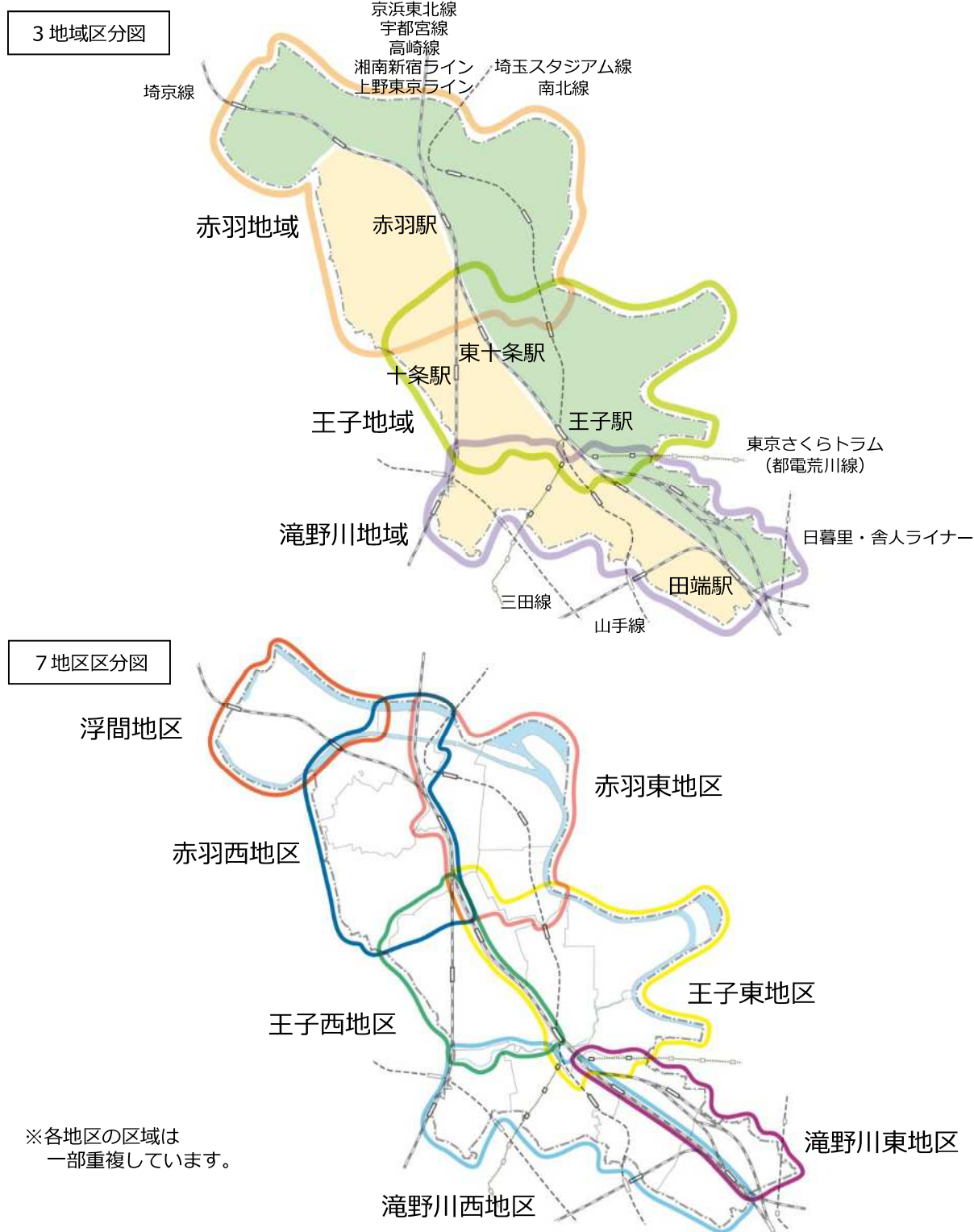
- | | |
|----------|---------|
| ◆土地利用 | ◇おでかけ環境 |
| ◇交流を育む魅力 | ◇住環境 |
| ◇環境共生 | ◇災害対応 |

まちづくり方針図：
主たる取組方針の
内容を図に示します。

5-2 地域・地区区分の設定

本計画では、くらしの要として東西地区を結ぶ拠点となっている赤羽駅、十条駅・東十条駅と王子駅、田端駅を中心に、赤羽地域、王子地域、滝野川地域の3地域を設定するとともに、各地域の将来都市像の実現に向けた具体的なまちづくりの展開については、7地区別に整理しています。

地区区分は、北区基本計画で示されている7地区区分を基本とし、コミュニティのまとまりである町会・自治会連合会の区分や駅周辺で展開されているまちづくりの広がりを反映し、一部重複して設定します。



地区設定の考え方

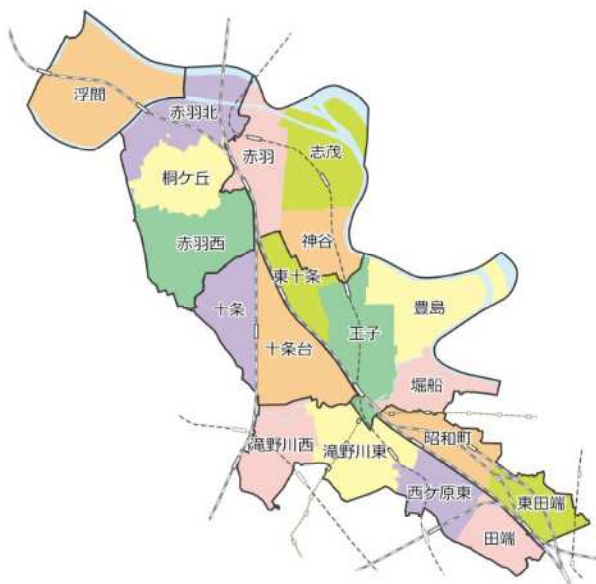
●基本計画における地域区分の考え方

- ・北区は武蔵野台地の崖下線に沿ってJR線が走り、区の中央を東西に横断している環状7号線が通り、荒川、隅田川、新河岸川、石神井川が流れています。
- ・そうした鉄道や幹線道路、河川により分けられる区域は、区民の日常生活圏や地域のコミュニティ形成上、概ねひとつのまとまりになっています。



●町会・自治会連合会に基づく区域区分

- ・区内には、地域の活動拠点となる地域振興室が19室あり、各地域振興室の管轄区域を単位に町会・自治会連合会が構成されています。
- ・一部の地域振興室の管轄区域は、鉄道や幹線道路を跨いだ区域になっており、基本計画における7地区区分と一部異なる区域があります。



●駅周辺のまちづくりの対象区域

- ・赤羽駅、十条駅、王子駅周辺のまちづくりが進んでいますが、王子駅や十条駅周辺のまちづくりの対象区域が前計画の地区区分を跨いでいます。
- ・赤羽駅東口地区まちづくりゾーニング構想の対象区域は、赤羽地域の中心になっています。
- ・十条地区まちづくり基本構想の対象区域は、基本計画における王子地域と赤羽地域を跨いだ区域になっています。
- ・王子駅周辺まちづくりランドデザインの対象区域は、基本計画における王子地域と滝野川地域を跨いだ区域になっています。



5-3 3地域の将来都市像

北区は崖線を境に西側が台地部、東側が低地部となっており、東西を結ぶ赤羽駅周辺や十条・東十条駅周辺、王子駅周辺、田端駅周辺は、「駅を中心としたコンパクトで活動的なくらし」を目指すうえで重要な役割を担っています。

東西の交通の円滑化や都市機能の集積などにより、まちの交流を促進し、まちの活力を一層高めることで区全体の「将来都市像」を実現するため、駅周辺を中心とした赤羽地域、王子地域、滝野川地域の3地域の将来都市像を設定します。

(1) 赤羽地域の将来都市像

水辺やみどりに囲まれた、多様な機能が集積する利便性の高いまち

- ・赤羽駅を中心として地域公共交通の利便性が向上し、活気ある商店街などを中心としたにぎわいが形成されています。
- ・荒川や新河岸川、大規模な公園に恵まれるとともに、トップアスリートが集う施設が立地し、うるおいとスポーツや地域の文化を楽しめる環境が形成されています。
- ・市街地再開発事業の促進などにより駅前周辺にまとまった空地が創出され、地域全体の滞留機能が高まることにより、にぎわいや新たな価値が創出される場となっています。
- ・駅を中心とした地域公共交通の利便性向上や ICT などの先端技術の活用・シェアリングなどが図られるとともに、新しい都市施策の社会実験が実施され、未来の都市のあり方、ライフスタイルを模索する環境が形成されています。
- ・都市型産業が住宅と共存し、高い生産性を維持しています。

(2) 王子地域の将来都市像

ヒト・モノ・コトが集まる、にぎわいと豊かなうるおいのあるまち

- ・駅を中心に働く場や買い物などを楽しむ場が形成されています。また、商店街は地域主体による多様な活動の場としてもにぎわっています。
- ・飛鳥山公園や石神井川などの四季の変化を楽しめる環境をはじめ、誰もが歩きたくなるルートが形成されています。
- ・駅を中心とした地域公共交通の利便性向上や ICT などの先端技術の活用・シェアリングなどが図られるとともに、新しい都市施策の社会実験が実施され、未来の都市のあり方、ライフスタイルを模索する環境が形成されています。

(3) 滝野川地域の将来都市像

豊かな歴史・文化が身近にある、利便性の高い多様な交流が生まれるまち

- ・都心への近接性を活かした利便性の高い複合的な機能を持つ市街地が形成されています。
- ・駅を中心とした地域公共交通の利便性向上が図られています。
- ・ICT などの先端技術の活用やシェアリングなどによる工場などを持たないものづくりなど、新しい働き方ができる環境が形成されています。
- ・東京さくらトラム（都電荒川線）などによる移動を楽しめる環境と地域の歴史・文化資源の保全や活用がされることにより、地域の魅力が発信されています。

5－4 浮間地区のまちづくり方針

(1) まちの特徴

ひと

- ・工場などの跡地におけるマンション建設により、子育て世代が増加傾向にあります。
- ・比較的高齢化率が低くなっています。
- ・2033 年まで年少人口、生産年齢人口は増加が見込まれています。
- ・世帯数は今後も増加傾向が続くと見込まれています。

なりたち

- ・荒川の改修工事の結果、大正末期に埼玉県から東京都に編入されました。
- ・戦後には、土地区画整理事業による都市基盤整備が行われ、製造を中心とした工場などが建設され、戦後も工場の立地とともに市街化が進み、1950 年代には水田は消滅しました。
- ・昭和後半には、工場の移転に伴い跡地に集合住宅が建設されはじめました。更に JR 埼京線が開通したことにより、交通利便性が高まりマンションの建設が進みました。



浮間つり堀公園



浮間の桜並木



浮間舟渡駅前の通り



職と生活

- JR 埼京線が通り、池袋駅、新宿駅、渋谷駅まで乗り換えのないアクセス・移動など、交通利便性が高くなっています。
- 新河岸川沿いをはじめ工場が多く立地しており、区内を代表する産業集積地となっています。



区内を代表する産業集積地

うるおいとやすらぎ

- 荒川と新河岸川に囲まれ、水辺空間に恵まれた環境となっており、荒川河川敷の整備が進められています。
- 江戸時代からの行楽地となっていた浮間ヶ原の桜草や、氷川神社の例祭、水難防止を祈願するマンゴリ※（万垢離）の行事など、古くからの歴史文化が残っています。
- 荒川緑地の開放的な空間や新河岸東公園などがあり、スポーツ、健康づくりを身近にできる場所に恵まれています。
- 江戸時代には浮間地区全戸の菩提寺であった観音寺や、大宮氷川神社から勧請したとされ、かつての浮間村の鎮守社であった氷川神社など、古くから地域に親しまれた寺社があります。
- 区内で唯一生産緑地が残っています。



新河岸東公園



生産緑地

人と人のつながり

- 工場跡地などの土地利用転換により、マンションの建設が進み、年少人口の増加と相まって子育て世代が増加傾向にあります。子育て支援施設や地域施設を複合化した小・中学校の改築など、子ども、地域、PTA の交流環境が充実しています。
- かつて、荒川沿いの浮間ヶ原と呼ばれた桜草の群生地は、地域の浮間桜草保存会の人々の手によって浮間ヶ原圃場として再生が図られ、毎年 4 月の開花の時期には、浮間さくら草祭りでにぎわっています。西浮間小学校では、保存会のメンバーが年間を通して栽培方法を指導しており、全校児童が一人一鉢ずつ栽培し、地域との交流を深めています。



浮間ヶ原の桜草圃場（ほじょう）

【出典】北区 HP

(2) まちづくりの課題

- ・工場跡地におけるマンション建設が進んでいることから、操業環境を保全するとともに、住・工が共存したまちの形成が求められています。
- ・都心への移動が便利である一方、地区内における鉄道駅までの交通利便性の向上が求められています。
- ・浮間ヶ原の桜草や氷川神社の例祭、マンガリ（万垢離）など、古くからの歴史・文化資源を次世代に継承していくことが求められています。
- ・健康づくりや交流を一層促進する環境づくりを進めていくため、公園や河川敷へのアクセス性や、地区内の回遊性を高める必要があります。
- ・荒川と新河岸川など水辺空間の更なる活用を図っていくとともに、水害への対応力の向上が求められています。

(3) まちの将来像

水辺やみどりを楽しめる、住・工が共存したまち「浮間」

～・～・将来像の解説・～・～

- ・荒川、新河岸川などの水辺やみどりが身近にあることから、水害などの災害に強い水辺やみどりを活かした市街地の形成を目指します。
- ・工場が比較的立地していることから、既存工場の操業環境と集合住宅などの住環境が共存した市街地の形成を目指します。

(4) 取組方針

◆土地利用

■浮間舟渡駅周辺のまちづくりの推進

- ・生活利便機能の立地を誘導するとともに、鉄道駅の利便性、安全性の向上を進めることで、板橋区との連携による一体的な地区連携拠点の形成を図ります。

■北赤羽駅周辺のまちづくりの推進

- ・集合住宅の建設などによる人口増加に対応する生活利便機能の立地を誘導し、日常的な暮らしを支える生活中心拠点の形成を図ります。

■ 住・工が共存した市街地の形成

- ・ 研究施設や大学・企業間での連携などにより、先端技術を活用し、都市型産業への転換を検討しながら、既存工場の操業環境の保全に配慮しつつ住宅などの立地に際して適切な誘導を行い、住・工が共存した市街地の形成を図ります。

◇おでかけ環境

■ 浮間舟渡駅周辺のバリアフリー化

- ・ 浮間舟渡駅南側の広場空間整備を含め、駅前広場におけるバリアフリー化をはじめとした整備により、より安全で快適な交通環境の形成を図ります。

■ 新河岸東公園へのアクセス性の向上

- ・ 新河岸東公園への経路について、ユニバーサルデザインに配慮した歩行環境の整備を進めるとともに、分かりやすい公共サインなどを整備することにより、アクセス性の向上を図ります。

◇交流を育む魅力

■ 浮間公園や新河岸東公園の保全

- ・ 浮間公園や新河岸東公園の保全を図るとともに、公共空間としてより柔軟な活用を促進することで、水辺とみどりを活かした交流を生む環境づくりを進めます。



浮間公園

■ 民有地の緑化

- ・ 集合住宅や大規模工場の建設などの際には、緑化基準に基づき、接道部などを中心とした緑化を促進し、みどり豊かな市街地の形成を図ります。

■ 荒川の水辺空間の活用

- ・ 荒川の水辺空間の保全を図るとともに、河川敷の活用可能性やアクセス性の改善について検討し、河川とまちが一体となった水に親しめるまちづくりを推進します。

■ 生産緑地の保全

- ・ 生産緑地については、農に触れられる貴重な環境として保全を図ります。

◇住環境

■ 公営住宅のストック活用の推進

- ・ 公営住宅の長寿命化を図るとともに、多様なライフスタイルを支える住環境の形成を図ります。

■高齢者も安心して生活できる住環境の整備

- ・既存住宅ストックの有効活用や適切な維持管理、防災・防犯性の向上など、高齢者も安心して生活できる住環境の形成を図ります。
- ・荒川河川敷や浮間公園などへのアクセス路や商店街などの歩行環境の整備を進め、歩いてくらせる市街地の形成を図ります。

◇環境共生

■水辺・みどりの保全によるヒートアイランド現象の緩和

- ・荒川・新河岸川、浮間公園などの水辺環境や公園・緑地の保全・整備などにより、まとまりのあるみどりの確保・創出を図ることで、ヒートアイランド現象による気温上昇の抑制を図ります。
- ・河川や親水公園などの適切な維持管理による水辺の涼しさを活かしたクールスポットの形成を進めるとともに、街路樹による歩道の緑陰確保などにより、熱負荷を軽減した快適な市街地の形成を図ります。

■新河岸川の水辺空間・親水空間の保全

- ・新河岸川の水質改善やみどりの適切な維持管理を促進し、生物多様性に配慮した水辺空間・親水空間の保全を進めます。

◇災害対応

■水害対策の推進

- ・荒川における高規格堤防整備事業を促進し、水害への対応力を高めるとともに、その機会を活用した親水空間の整備を進め、魅力ある水辺空間の形成を図ります。
- ・低地部における大規模水害時の対応として、既施設及び新たに建設予定の施設などに対し、水害時垂直避難施設の確保を促進します。
- ・河川防災ステーションにおける資材備蓄などを推進し、水害時の拠点としての備えを進めるとともに、平時からの防災に関する普及啓発活動などを推進します。

■防災船着場の整備及び平時からの活用

- ・防災船着場の整備を進めるとともに、災害時の円滑な利用に向け、平時からの利用を促進することで、災害時にも安定した水上輸送路の確保を図ります。

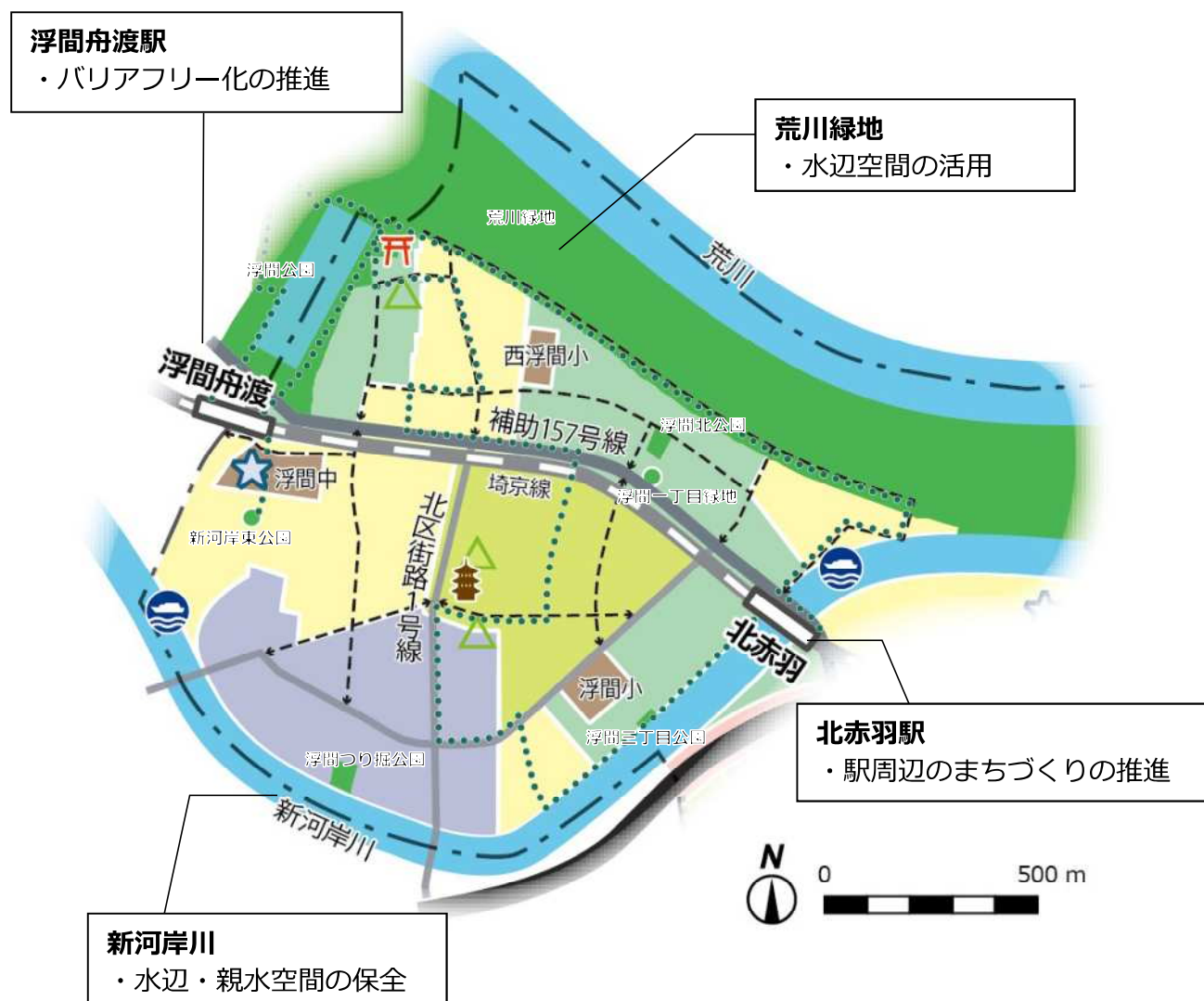
■避難路・輸送路の確保

- ・緊急輸送道路沿道における建築物の耐震化を促進し、緊急輸送道路ネットワークの確保を図ります。

浮間地区まちづくり方針図

【将来像】

水辺やみどりを楽しめる、住・工が共存したまち「浮間」



取組方針

◆土地利用 ■浮間舟渡駅周辺のまちづくりの推進 ■北赤羽駅周辺のまちづくりの推進 ■住・工が共存した市街地の形成
◇おでかけ環境 ■浮間舟渡駅周辺のバリアフリー化 ■新河岸東公園へのアクセス性の向上
◇交流を育む魅力 ■浮間公園や新河岸東公園の保全 ■民有地の緑化 ■荒川の水辺空間の活用 ■生産緑地の保全
◇住環境 ■公営住宅のストック活用の推進 ■高齢者も安心して生活できる住環境の整備
◇環境共生 ■水辺・みどりの保全によるヒートアイランド現象の緩和 ■新河岸川の水辺空間・親水空間の保全
◇災害対応 ■水害対策の推進 ■防災船着場の整備及び平時からの活用 ■避難路・輸送路の確保

凡 例

土地利用

	居住ゾーン（中高層）
	複合共生ゾーン
	居住ゾーン（低中層）
	幹線道路沿道ゾーン
	産業保全ゾーン
	教育施設

鉄道

	JR
---	----

道路

完成・事業中	未整備	
		幹線道路
		地区幹線道路
		主要生活道路

地域資源

	文化・社会教育施設
	寺院
	神社
	公共防災船着場
	公園・緑地 （都市計画含む）
	生産緑地
	水辺空間
	散策のネットワーク

5-5 赤羽東地区のまちづくり方針

(1) まちの特徴

ひと

- ・ 2006 年から 2016 年にかけての人口が 9.5%増加しています。区内でも生産年齢人口が特に増加傾向にあります。
- ・ 年少人口は 2033 年まで、生産年齢人口は 2028 年まで増加が見込まれています。
- ・ 世帯数は今後も増加傾向が続くと見込まれています。

なりたち

- ・ 江戸時代、日光御成道が荒川を川口へと渡る宿場町、岩淵宿として栄えました。
- ・ 明治時代には、赤羽駅が開設されたことにより、鉄道の要衝として発展し、大正時代になると河川沿いに工場が増え、市街化が始まりました。関東大震災後には、市街化が加速し木造住宅密集地域が形成されました。昭和後半には、岩淵水門（青水門）が完成したことで、大規模な河川の氾濫がなくなりました。
- ・ 戦時中は、駅周辺が空襲による被害を受け、戦後に区画整理が行われました。
- ・ 戦後は、戦前にも増して、店舗や映画館などが集積する商業のまちへと発展し、志茂や神谷などの工場にも活気が戻ったことを受け、最寄品購入のための商店街が形成されてきました。
- ・ その後、工場は減少し、跡地などにマンションや商業施設が立地したことで、住・商・工が混在する市街地が形成されました。
- ・ 1991 年には、東京メトロ南北線が開業し、市街地の利便性がさらに高まりました。
- ・ 近年では、赤羽駅東口地区まちづくり全体協議会により「赤羽駅東口地区まちづくりゾーニング構想」が策定されました。このゾーニング構想を基軸に赤羽駅周辺まちづくりが展開されており、今後は市街地再開発事業などが進められる予定です。



八雲神社



新旧岩淵水門（青水門・赤水門）



沿川の工場

職と生活

- 交通結節点となる JR 埼京線・京浜東北線など 5 路線が通る赤羽駅、東京メトロ南北線の赤羽岩淵駅、志茂駅が立地していることで、地区内の多くが鉄道駅から 500m の徒歩圏域に含まれており、区内外への交通利便性が高くなっています。
- 赤羽駅周辺は区内最大の商業集積地となっています。大規模な商業施設があるとともに、地域に密着した商店や飲食を中心とした商店街が集積している地区でもあり、地域住民や来街者の交流が生まれるにぎわいのあるまちが広がっています。
- 隅田川沿川の一部地区には工場が集積しており、工業地域として区内の産業活力を創出しています。



赤羽一番街

うるおいとやすらぎ

- 荒川・隅田川・新河岸川の水辺空間に恵まれており、広い河川敷などでのレクリエーションや憩いの場となっています。
- 赤羽東地区の近代化のきっかけになった赤水門として親しまれている旧岩淵水門や、旧岩淵水門の老朽化に伴い整備された岩淵水門（青水門）があり、荒川の治水の歴史を感じられる地域資源が残っています。
- 荒川緑地の開放的な空間や赤羽体育館などがあり、スポーツ、健康づくりを身近にできる場所に恵まれています。
- 北区指定無形民俗文化財※に指定されている白酒祭（オビシャ行事）が行われる志茂熊野神社や、日光御成道の岩淵宿鎮守であった八雲神社、徳川家光より寺領として 10 石余を賜っていた宝幢院、鎌倉時代に開創された志茂地区の代表的な寺院である西蓮寺など、まちの歴史や文化を感じられる地域資源が残っています。



熊野神社の白酒祭

【出典】北区 HP

人と人のつながり

- 商店街を中心に、地域や大学と協働で開催される「赤羽馬鹿祭り」など、地域のつながりを活かしたにぎわいづくりが行われています。



赤羽馬鹿祭り

(2) まちづくりの課題

- ・近年、工場の移転に伴い、跡地に集合住宅などが建設され、住・工が調和した土地利用の誘導やまちなみの形成が求められています。
- ・地区内の東西を結ぶバス路線がないことから、地区内における交通利便性の向上が求められています。また、区内外から自転車で赤羽駅を訪れる人が多く、鉄道駅周辺の駐輪場整備や放置自転車対策など、安全な自転車利用環境が求められています。
- ・河川の水辺空間は、生物の生息空間にもなっており、生物多様性の視点からも貴重な環境となっているため、水辺空間の保全・活用を進めていく必要があります。
- ・まちの歴史・文化資源を住民との協働により保全・活用しながら、次世代に継承していく必要があります。
- ・古くから住んでいる住民と、マンションなどに移住してきた新住民との交流を促進するとともに、地域コミュニティの形成を図ることで、災害時の助け合いやにぎわいづくりを支える地域のつながりを強めることが求められています。
- ・商店街においては、空き店舗の活用などにより、にぎわいの維持・活性化を図るとともに、地域の交流の場としていくことが求められています。
- ・志茂地区などの木造住宅密集地域が残る地区では、オープンスペースの確保や老朽建築物の更新などによる燃え広がらないまちづくりや、震災時に避難路となる主要な道路の沿道建築物の不燃化などによる安全性の確保が求められており、継続的に防災まちづくりを進める必要があります。
- ・地区全域が低地であることから、水害危険性の周知を図るとともに、大規模水害発生時の台地部への避難路の確保が求められています。

(3) まちの将来像

利便性の高い、安心してくらせるにぎわいのあるまち

「赤羽東」

～・～・将来像の解説・～・～

- ・ 鉄道駅の利便性を最大限に発揮するために、鉄道駅周辺のまちづくりを展開し、駅を中心とした利便性の高い市街地の形成を目指します。
- ・ 地区内全域に水害の危険性があり、また、志茂地区など木造住宅密集地域もあることから、災害への対応力が高い市街地の形成を目指します。
- ・ 地域に密着した商店街や、隅田川沿いなどに地域産業の活力となる工場が立地することから、住・商・工の複合的な活気のある市街地の形成を目指します。

(4) 取組方針

◆土地利用

■ 赤羽駅東口地区における市街地再開発事業を契機としたまちづくり

- ・ 赤羽駅周辺において、大街区化などによる都市機能の更新を図ることで、高度利用を促進し、都市中心拠点としてふさわしい利便性の高いにぎわいのある市街地の形成を図ります。
- ・ 市街地再開発事業を契機とした周辺環境の整備を図るとともに民間開発を誘導し、住宅を重点的に供給することで、居住地としても選ばれる市街地の形成を図ります。



赤羽駅周辺

■ 志茂地区のまちづくりの推進

- ・ 研究施設への転換や大学・企業間での連携などにより、先端技術を活用し、都市型産業への転換を検討しながら、既存工場の操業環境の保全と住環境との調和を進め、住・工が共存した市街地の形成を図ります。
- ・ 志茂駅周辺においては、生活利便施設などの立地を促進することで、持続的な生活を支える地区連携拠点の形成を図ります。

■ 環状7号線沿道土地利用の誘導

- ・ 沿道地区計画に基づく適切な土地利用を誘導し、幹線道路の沿道にふさわしい土地利用と環境の整備を図ります。

◇おでかけ環境

■赤羽駅の安全性向上

- ・赤羽駅及びその周辺のバリアフリー化を進め、安全で快適に利用できる交通結節機能の強化を図ります。

■道路整備の推進

- ・補助 85 号線、補助 86 号線などの都市計画道路をはじめとした道路整備を推進し、快適で利便性の高い交通環境の形成を図ります。
- ・放射 10 号線の未整備区間は、望ましい整備の在り方について検討します。

■総合的な駐輪対策の推進

- ・赤羽駅や赤羽岩淵駅、志茂駅周辺などにおいては、民間事業者などと協力しながら、誰もが利用しやすい駐輪場の整備など放置自転車対策を促進することで、快適な自転車利用環境の形成を図ります。

◇交流を育む魅力

■民間開発事業による良好な公共空地の整備促進

- ・赤羽駅東口地区における市街地再開発事業など、民間事業者による開発と連携した良好な公共空地の整備を進めます。

■荒川緑地の活用

- ・新荒川大橋野球場やバーベキュー広場など開放的なレクリエーション空間としての活用を促進することで、水辺やみどりを活かした交流とにぎわいを育む環境を形成します。
- ・水質改善やみどりの適切な管理により、生物多様性の保全を図るとともに、北区・子どもの水辺などに代表される自然体験や環境教育の場としての活用を促進します。



自然体験や環境教育の場

■隅田川沿川地区の良好な景観づくりの推進

- ・景観形成重点地区である隅田川沿川地区では、北区景観づくり計画の景観形成基準に基づき、水辺の開放感と歴史を感じる豊かな都市文化と調和した隅田川らしい景観の保全・形成を促進します。

■みどりの協定などによるまちなかの緑化の推進

- ・住民などによるみどりの維持管理や緑化を促進し、みどり豊かな市街地の形成を図ります。

■ 沿川における散策ネットワークの形成

- ・ 河川沿川の散策路の整備を推進するとともに、鉄道駅からのアクセス路の歩行環境の整備を進めることで、荒川や隅田川の水辺を活かした快適な散策ネットワークの形成を図ります。

【出典】 co-toiro iwabuchi



宿場町まるしえ

◇住環境

■ 商店街の空き店舗を活用したにぎわいづくり

- ・ 赤羽駅周辺などの商店街においては、空き店舗などを活用した開業促進や地域交流の場の形成による居場所づくりを進めることで、商店街の活性化を図ります。



地域交流の場（コトイロ）

■ 赤羽中学校跡地を活用した医療・福祉施設の整備の推進

- ・ 学校施設跡地利活用計画に基づき、赤羽中学校跡地の用地を活用した医療・福祉施設の整備を推進し、誰もが安心して生活できる生活環境の形成を図ります。

■ 赤羽駅周辺のまちづくりと連動した赤羽小学校の検討

- ・ 市街地再開発事業など、まちづくりの事業化の動きにあわせて、地域の拠点施設である赤羽小学校について、教育環境の確保とまちづくりの推進の両面から、そのあり方を検討します。

■ 赤羽駅周辺の公共施設の効率的な更新の検討

- ・ 赤羽会館など駅周辺の大規模公共施設は、経年による老朽化などを迎えていることから、各施設の特性などを十分に踏まえたうえで、効率的な更新などについて検討します。

■ 施設一体型小中一貫校の設置に向けた取組みの推進

- ・ 「北区神谷中サブファミリー施設一体型小中一貫校全体構想」に基づく施設一体型小中一貫校の設置に向けた取組みを推進し、快適な教育環境の形成を図ります。

◇環境共生

■水辺・みどりの保全によるヒートアイランド現象の緩和

- ・荒川、隅田川、新河岸川の水辺環境や公園・緑地の保全などにより、まとまりのあるみどりの確保・創出を図ることで、ヒートアイランド現象による気温上昇の抑制を図ります。
- ・河川などの適切な維持管理による水辺の涼しさを活かしたクールスポットの形成を進めるとともに、街路樹による歩道の緑陰確保などにより、熱負荷を軽減した快適な市街地の形成を図ります。

■新河岸川の水辺空間・親水空間の保全

- ・新河岸川の水質改善やみどりの適切な維持管理を促進し、生物多様性に配慮した水辺空間・親水空間の保全を進めます。

■環境に配慮した清掃工場の建替えの推進

- ・「東京二十三区清掃一部事務組合一般廃棄物処理基本計画」に基づく北清掃工場の建替え事業は、同組合と連携し、周辺の住環境との調和を図ります。



北清掃工場

■カーシェアリングやシェアサイクルの導入促進

- ・鉄道駅周辺などにおいて、民間事業者などと協力しながら、カーシェアリングやシェアサイクルの導入を促進し、環境負荷の低い移動環境の形成を図ります。

■遊休地を活用したポケットパークなどによるにぎわいづくり

- ・鉄道駅や商店街の周辺において、遊休地を時限的なポケットパークなどとして活用するなど、新たなまちのにぎわいづくりを進めます。

◇災害対応

■志茂地区の防災まちづくりの推進

- ・木造住宅密集地域が残る地区における建築物の不燃化・耐震化を促進し、安全な市街地の形成を図ります。
- ・木造住宅密集地域の主要生活道路などモデル事業としての狭い道路における無電柱化を進め、安全な避難路の確保を図ります。
- ・防災街区整備地区計画に基づき、適切な土地利用を誘導し、地区特性に応じた快適で安全な市街地の形成を図ります。また、防災街区整備事業※による共同建替えを進め、安全な市街地の形成を図ります。
- ・都市防災不燃化促進事業※などによる地区防災道路沿道の建築物の耐火構造への更新を促進することで、安全な市街地の形成を図ります。



防災街区整備事業区域

■ 補助 86 号線の整備

- ・ 延焼遮断帯の形成、災害時における安全な避難路の確保、緊急車両の通路確保による円滑な救助・救援活動及び大規模水害時の台地部への避難などを可能にするため、整備を促進します。
- ・ 道路事業にあわせて、都市防災不燃化促進事業などによる沿道の不燃化を促進し、延焼遮断帯の形成を進めます。

■ 水害対策の推進

- ・ 荒川における高規格堤防整備事業及び隅田川におけるスーパー堤防整備事業を促進し、水害への対応力を高めるとともに、その機会を活用した親水空間の整備を進め、魅力ある水辺空間の形成を図ります。
- ・ 低地部における大規模水害時の対応として、既施設設及び新たに建設予定の施設などに対し、水害時垂直避難施設の確保を促進します。
- ・ 洪水から荒川下流の人々の暮らしを守ってきた歴史的な価値もある旧岩淵水門や、荒川流域の交流拠点でもある荒川知水資料館（アモア）などを活用し、水害に関する普及啓発活動を進めます。
- ・ 隣接区とも連携しながら、水害時に安全に避難できる適切な避難場所について検討します。

■ 防災船着場の平時からの活用

- ・ 災害時の円滑な利用に向けた平時からの利用を促進することで、災害時にも安定した水上輸送路の確保を図ります。

■ 避難路・輸送路の確保

- ・ 緊急輸送道路沿道における建築物の耐震化を促進し、緊急輸送道路ネットワークの確保を図ります。

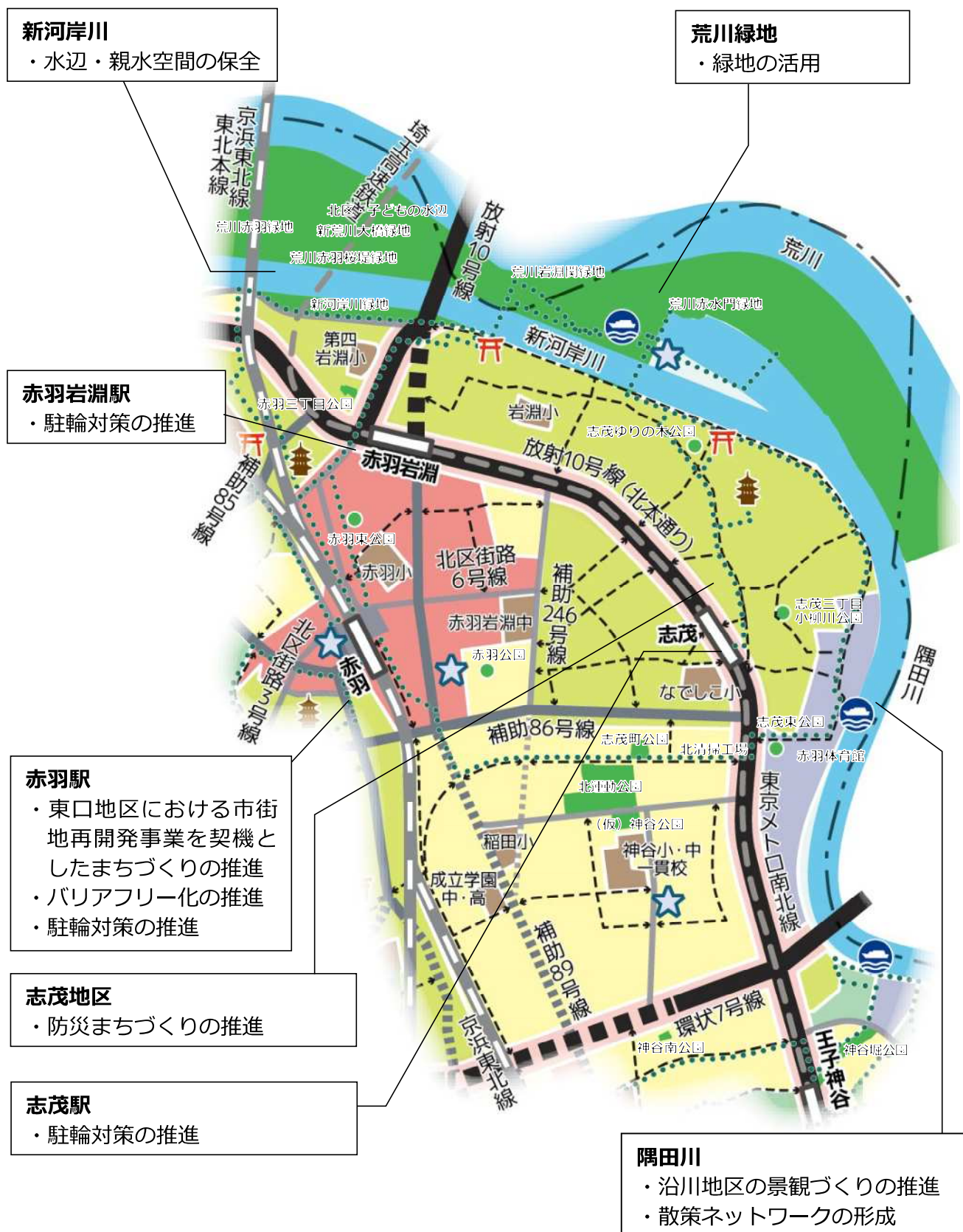


荒川緑地と防災船着場

赤羽東地区まちづくり方針図

【将来像】

利便性の高い、安心してらせるにぎわいのあるまち「赤羽東」



取組方針

◆土地利用 ■赤羽駅東口地区における市街地再開発事業を契機としたまちづくり ■志茂地区のまちづくりの推進 ■環状7号線沿道土地利用の誘導
◇おでかけ環境 ■赤羽駅の安全性向上 ■道路整備の推進 ■総合的な駐輪対策の推進
◇交流を育む魅力 ■民間開発事業による良好な公共空地の整備促進 ■荒川緑地の活用 ■隅田川沿川地区の良好な景観づくりの推進 ■みどりの協定などによるまちなかの緑化の推進 ■沿川における散策ネットワークの形成
◇住環境 ■商店街の空き店舗を活用したにぎわいづくり ■赤羽中学校跡地を活用した医療・福祉施設の整備の促進 ■赤羽駅周辺のまちづくりと連動した赤羽小学校の検討 ■赤羽駅周辺の公共施設の効率的な更新の検討 ■施設一体型小中一貫校の設置に向けた取組みの推進
◇環境共生 ■水辺・みどりの保全によるヒートアイランド現象の緩和 ■新河岸川の水辺空間・親水空間の保全 ■環境に配慮した清掃工場の建替えの推進 ■カーシェアリングやシェアサイクルの導入促進 ■遊休地を活用したポケットパークなどによるにぎわいづくり
◇災害対応 ■志茂地区の防災まちづくりの推進 ■補助86号線の整備 ■水害対策の推進 ■防災船着場の平時からの活用 ■避難路・輸送路の確保

凡 例

土地利用

- 都市機能集積ゾーン
- 居住ゾーン（中高層）
- 複合共生ゾーン
- 居住ゾーン（低中層）
- 幹線道路沿道ゾーン
- 産業保全ゾーン
- 教育施設
- 水辺空間

鉄道

- JR
- 東京メトロ・都営地下鉄・日暮里舎人ライナー

道路

- 完成・事業中 未整備
- 主要幹線道路
- 幹線道路
- 地区幹線道路
- 主要生活道路

地域資源

- 文化・社会教育施設
- 寺院
- 神社
- 公共防災船着場
- 公園・緑地（都市計画含む）
- 水辺空間
- 散策のネットワーク

5-6 赤羽西地区のまちづくり方針

(1) まちの特徴

ひと

- ・ 2006 年から 2016 年にかけて、生産年齢人口が 5.1%減少しており、働き盛りの世代が減少しています。
- ・ 区内でも高齢化率が 29.8%と高くなっており、高齢者人口が増加傾向にあります。
- ・ 2028 年以降、人口も世帯数も減少傾向に転じると見込まれています。

なりたち

- ・ 古くからの農村地であり、巨大都市江戸を支える野菜生産地でした。
- ・ 明治時代に赤羽駅が開設されたことをきっかけに市街化が進みました。その後、多くの軍事施設が立地し、赤羽駅の利用者が増え、商店街が形成されました。
- ・ 関東大震災後には市街化が加速し、木造住宅密集地域が形成される一方、西が丘では土地区画整理事業が行われ、良好な都市基盤が整備されました。
- ・ 戦後には、軍事施設跡地に大規模団地や公園・公共施設などが整備されました。この時期に建設された UR 赤羽台団地や都営桐ヶ丘団地などの大規模団地の建替えが進んでいます。
- ・ 赤羽駅西口では、駅前の木造密集地域において市街地再開発事業が行われ、駅前広場などの基盤が整備されました。また、北赤羽駅赤羽口でも埼京線の開通にあわせて市街地再開発事業が行われ、基盤整備が行われました。
- ・ 近年では、UR 赤羽台団地とともに建設された赤羽台中学校の跡地を中心に、東洋大学赤羽台キャンパスが建設されました。また、西が丘においては、公共施設用地に味の素ナショナルトレーニングセンターなどスポーツ施設が建設されました。



ふるさと農家体験館



赤羽緑道公園



静勝寺



稲付の餅搗唄



【出典】北区 HP

職と生活

- 交通結節点となる JR 埼京線・京浜東北線など5路線が通る赤羽駅、JR 埼京線の北赤羽駅があり、都心への交通利便性が高くなっています。
- 赤羽駅前には再開発事業により誘致された大規模商業施設が立地するとともに、地域に密着した商店街が集積しています。



赤羽駅西口

うるおいとやすらぎ

- 赤羽自然観察公園、桐ヶ丘中央公園、清水坂公園など大規模な公園が立地するとともに、赤羽緑道公園や赤羽台公園、UR 赤羽台団地や都営桐ヶ丘団地内の緑地など、みどり豊かな環境となっています。
- 稲付城跡に建立された静勝寺や、赤羽根村、下村、袋村、岩淵宿、稲付村（現在の赤羽、志茂、赤羽北、岩淵、赤羽西）の総鎮守であった赤羽八幡神社など、太田道灌※とのゆかりの深い寺社があります。
- かつての上野東照宮の本殿が移築されたと伝えられる香取神社、徳川家光の御朱印を賜った法真寺などがあり、まちの歴史や文化を感じられる地域資源が残っています。
- 赤羽自然観察公園には、北区指定文化財である旧松澤家住宅が移築復原され、かつての農村風景を再現した体験学習施設として活用されています。
- 2001 年に国立スポーツ科学センター、2008 年に味の素ナショナルトレーニングセンター、2019 年にはナショナルトレーニングセンター・イーストが建設され、ハイパフォーマンススポーツセンターとして日本のトップアスリートが集まる施設となっています。



清水坂公園



ナショナルトレーニングセンター・イースト

人と人のつながり

- 自然ふれあい情報館や赤羽自然観察公園など、子どもの頃から自然を学べる環境が整っています。
- ふるさと農家体験館では、伝統行事や昔あそび体験など、多様な取り組みが行われています。
- 東洋大学と連携した地域のにぎわいづくりが行われています。
- 道観山稲荷神社では、2 月の初午の日に江戸時代から伝わる北区指定無形民俗文化財の「稲付の餅搗唄」が披露されるなど、地域特有の風習が残っています。

(2) まちづくりの課題

- ・ 東洋大学との連携の促進や赤羽台東小学校跡地の活用などにより、子育てや教育環境の更なる充実が求められています。
- ・ 交通結節点である赤羽駅までの交通手段の充実が求められています。また、区内外から自転車で赤羽駅を訪れる人が多く、鉄道駅周辺の駐輪場整備や放置自転車対策など、安全な自転車利用環境が求められています。
- ・ UR 赤羽台団地、都営桐ヶ丘団地などの大規模団地の更新に伴う公共も含めた生活利便施設の集積や、オープンスペースの整備などによる良好な生活環境の形成が求められています。
- ・ 公園や緑地の保全を図るとともに、新規整備や再整備を進めていくことが重要です。
- ・ 地域特有の文化を地域活性化に向けて保全・活用するとともに、次世代に継承していくことが必要です。
- ・ 商店街においては、空き店舗の活用などにより、にぎわいの維持・活性化を図るとともに、地域の交流の場としていくことが求められています。
- ・ 国立スポーツ科学センターと味の素ナショナルトレーニングセンターなどによるハイパフォーマンススポーツセンターの立地を活かし、トップアスリートと地域の子どもの交流の機会を創出するとともに、公園や緑道、道路などを活かして運動を通じた健康づくりができる環境づくりが重要です。

(3) まちの将来像

快適な住まいと豊かな自然に恵まれた、でかけたくなるまち 「赤羽西」

～・～・将来像の解説・～・～

- ・ UR 赤羽台団地や都営桐ヶ丘団地などの更新が進む集合住宅や、良好なまちなみが形成された西が丘地区などそれぞれのライフスタイルに応じた快適な暮らしができる住環境の形成を目指します。
- ・ 豊かな自然環境や公園とスポーツ施設などを活かした身近に健康づくりができる市街地の形成を目指します。
- ・ 赤羽駅の利便性を活かし、鉄道駅を中心とした地域内外への利便性の高い市街地の形成を目指します。

(4) 取組方針

◆土地利用

■UR 赤羽台団地、都営桐ヶ丘団地の更新を契機とした地区連携拠点の形成

- ・UR 赤羽台団地、都営桐ヶ丘団地の更新による良好な住宅ストックの活用・再生を促進するとともに、生活利便施設や公共サービスの集積を図ることで地区連携拠点の形成を図ります。



都営桐ヶ丘団地

■赤羽台東小学校跡地の活用

- ・赤羽駅からの近接性を活かした子どもや教育に関連する複合施設の整備を進めるとともに、都市中心拠点としてふさわしいにぎわいづくりを進めます。
- ・東洋大学や UR 都市機構との連携を図りつつ、必要に応じて赤羽台周辺地区地区計画の見直しも視野に入れながら、一体的な土地利用を促進します。



東洋大学赤羽台キャンパス【提供：東洋大学】

■環状 7 号線沿道土地利用の誘導

- ・沿道地区計画に基づく適切な土地利用を誘導し、幹線道路の沿道にふさわしい土地利用と環境の整備を図ります。

◇おでかけ環境

■赤羽駅の安全性向上

- ・赤羽駅及びその周辺のバリアフリー化を進め、安全で快適に利用できる交通結節機能の強化を図ります。

■北赤羽駅周辺のバリアフリー化

- ・北赤羽駅赤羽口においては、バリアフリー化を促進し、より安全で快適な交通環境の形成を図ります。

■道路整備の推進

- ・補助 73 号線、補助 83 号線、補助 85 号線、補助 86 号線、補助 243 号線、北區画街路 3 号線などの都市計画道路をはじめとした道路整備を推進し、快適で利便性の高い交通環境の形成を図ります。
- ・道路の拡幅整備にあわせて、道路管理者や交通管理者と連携しながら、歩行者が安全に通行できる環境づくりを進めます。

■赤羽駅周辺の駐輪対策の推進

- ・赤羽駅周辺においては、民間事業者などと協力しながら、誰もが利用しやすい駐輪場の整備など駐輪対策を促進することで、快適な自転車利用環境の形成を図ります。

◇交流を育む魅力

■大規模団地の更新と一体となった公園の整備

- ・UR 赤羽台団地、都営桐ケ丘団地の更新にあわせた（仮称）赤羽台けやき公園や桐ケ丘中央公園の整備を進めることで、地域住民の憩いと交流の場となるみどり環境の形成を図ります。

■赤羽自然観察公園・清水坂公園の活用

- ・赤羽自然観察公園内ふるさと農家体験館での伝統行事や昔あそび体験、清水坂公園の自然ふれあい情報館など、子どもの頃から自然を学べる環境づくりなどの多様な取組みを進めます。



憩いと交流の場となる公園

■荒川緑地の活用

- ・新荒川大橋野球場やサッカー場など開放的なレクリエーション空間としての活用を促進することで、水辺やみどりを活かした交流とにぎわいを育む環境を形成します。
- ・水質改善やみどりの適切な管理により、生物多様性の保全を図るとともに、北区・子どもの水辺などに代表される自然体験や環境教育の場としての活用を促進します。

■西が丘地区の良好なまちなみの保全・形成

- ・景観形成重点地区である西が丘地区では、北区景観づくり計画の景観形成基準に基づき、良好な住環境の保全を促進するとともに、さらなる魅力の向上を図ります。



景観形成重点地区

◇住環境

■UR 赤羽台団地、都営桐ケ丘団地の更新にあわせた生活利便施設の導入

- ・建替えにより創出される用地への商業・医療・福祉などの生活利便施設の導入を促進し、良好な生活環境の形成を図ります。

■高齢者も安心して生活できる住環境の整備

- ・区営シルバーピアや公営住宅などの良好なストックの有効活用や適切な維持管理、防災・防犯性の向上など、高齢者も安心して生活できる住環境の形成を図ります。



シルバーピア赤羽北

■無電柱化事業の推進

- ・北区画街路3号線の整備にあわせた無電柱化を推進し、沿道の建物や街路樹が映えるまちなみを創出します。

◇環境共生

■緑地の保全・創出によるヒートアイランド現象の緩和

- ・崖線のみどりや大規模公園などの緑地の保全・創出を進めることでヒートアイランド現象による気温上昇の抑制を図ります。
- ・崖線などと一体的なみどりを形成する街路樹の整備・更新などにより、連続的な緑陰を確保することで、熱負荷を軽減した快適な市街地の形成を図ります。

■新河岸川の水辺空間・親水空間の保全

- ・新河岸川の水質改善やみどりの適切な維持管理を促進し、生物多様性に配慮した水辺空間・親水空間の保全を進めます。

◇災害対応

■木造住宅密集地域の改善

- ・十条北地区などの木造住宅密集地域においては、老朽建築物の更新を図るとともに、公園や道路の整備を推進し、空地を確保することで安全な市街地の形成を図ります。

■補助 86 号線の整備

- ・延焼遮断帯の形成、災害時における安全な避難路の確保、緊急車両の通路確保による円滑な救助・救援活動及び大規模水害時の台地部への避難などを可能にするため、整備を促進します。
- ・道路事業にあわせて、都市防災不燃化促進事業などによる沿道の不燃化を促進し、延焼遮断帯の形成を進めます。

■幹線道路沿道における建築物の不燃化の促進

- ・補助 73 号線、補助 83 号線においては、都市防災不燃化促進事業などによる沿道建築物の不燃化を促進することで、延焼遮断帯や安全な避難路の形成を図ります。

■土砂災害対策の推進

- ・崖線周辺など、土砂災害の危険性がある地区においては、危険性や避難路・避難場所を周知するとともに、崖や擁壁の安全対策を進め安全な市街地の形成を図ります。



赤羽並木通りの桜並木

■避難路・輸送路の確保

- ・北区画街路 3 号線の整備にあわせた無電柱化を推進し、災害時の避難・救護活動を遮らない安全な市街地の形成を図ります。
- ・緊急輸送道路沿道における建築物の耐震化を促進し、緊急輸送道路ネットワークの確保を図ります。

赤羽西地区まちづくり方針図

【将来像】

快適な住まいと豊かな自然に恵まれた、でかけたくなるまち

「赤羽西」



取組方針

◆土地利用 ■UR 赤羽台団地、都営桐ヶ丘団地の更新を契機とした地区連携拠点の形成 ■赤羽台東小学校跡地の活用 ■環状7号線沿道土地利用の誘導
◇おでかけ環境 ■赤羽駅の安全性向上 ■北赤羽駅周辺のバリアフリー化 ■道路整備の推進 ■赤羽駅周辺の駐輪対策の推進
◇交流を育む魅力 ■大規模団地の更新と一体となった公園の整備 ■荒川緑地の活用 ■赤羽自然観察公園・清水坂公園の活用 ■西が丘地区の良好なまちなみの保全・形成
◇住環境 ■UR 赤羽台団地、都営桐ヶ丘団地の更新にあわせた生活利便施設の導入 ■高齢者も安心して生活できる住環境の整備 ■無電柱化事業の推進
◇環境共生 ■緑地の保全・創出によるヒートアイランド現象の緩和 ■新河岸川の水辺空間・親水空間の保全
◇災害対応 ■木造住宅密集地域の改善 ■補助86号線の整備 ■幹線道路沿道における建築物の不燃化の促進 ■土砂災害対策の推進 ■避難路・輸送路の確保

凡 例

土地利用

- 都市機能集積ゾーン
- 居住ゾーン（中高層）
- 複合共生ゾーン
- 居住ゾーン（低中層）
- 幹線道路沿道ゾーン
- 産業保全ゾーン
- 教育施設

鉄道

- JR
- 東京メトロ・都営地下鉄・日暮里舎人ライナー

道路

- | |
|---|
| <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <div style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: black; margin-right: 5px;"></div> 完成・事業中 <div style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></div> 未整備 </div> <div> <div style="display: inline-block; width: 20px; border-bottom: 2px solid black; margin-right: 5px;"></div> 主要幹線道路 <div style="display: inline-block; width: 20px; border-bottom: 2px dashed black; margin-right: 5px;"></div> 幹線道路 <div style="display: inline-block; width: 20px; border-bottom: 2px dotted black; margin-right: 5px;"></div> 地区幹線道路 <div style="display: inline-block; width: 20px; border-bottom: 2px dashed black; margin-right: 5px;"></div> 主要生活道路 </div> </div> |
|---|

地域資源

- 文化・社会教育施設
- 寺院
- 神社
- 公共防災船着場
- 公園・緑地（都市計画含む）
- 水辺空間
- 散策のネットワーク

5-7 王子東地区のまちづくり方針

(1) まちの特徴

ひと

- ・ 2006 年からの人口増加率が北区全体と比較してやや低く、特に生産年齢人口は 1.9% 減少しており、働き盛りの世代がわずかながら減少しています。
- ・ 高齢者人口割合は北区全体の平均よりわずかに高く 26.6%となっており、また、2006 年からの高齢者人口増加率が北区全体と比較しても高くなっています。
- ・ 世帯構成は北区全体とほぼ同様の傾向であり、平均的な北区の世帯構成といえます。
- ・ 2023 年以降、人口は減少に転じると見込まれています。
- ・ 2028 年まで年少人口、世帯数は増加が見込まれています。

なりたち

- ・ 江戸時代には、飛鳥山が江戸近郊の行楽地として親しまれました。その他の地域では水田が広がっていました。
- ・ 明治時代に王子駅が開設され、市街化の基礎が築かれていきました。
- ・ 1873 年に渋沢栄一翁が抄紙会社（後の王子製紙会社）を創設すると、隅田川や石神井川の豊富な水資源があることなどから、製紙業の工場をはじめ、様々な工場が立ち並び発展していきました。
- ・ 関東大震災後の市街化では土地区画整理事業が行われた区域がありました。戦時中は大規模な空襲で大きな被害が出ましたが、戦後には戦災復興土地区画整理事業が行われ都市基盤の整備が進むとともに、高度成長期には「城北工業地帯」の一画として再び栄えていきました。
- ・ 昭和後期には、工場の郊外移転に伴う住宅建設が多く見られるようになりました。
- ・ 1991 年には、地下鉄南北線が開通し交通利便性が高まりました。また、2002 年には首都高速道路王子線の本線が供用開始され、高速バスによる新たな交通ネットワークの形成が始まり、2015 年には、首都高速道路王子線の王子南出入口が供用開始され、区外への交通利便性が高まりました。
- ・ 近年では、「王子駅周辺まちづくりグランドデザイン」を策定し、王子駅周辺におけるまちづくりの具体化が進んでいます。



都電のある風景



王子駅周辺



隅田川

王子東
地区

職と生活

- 王子駅は、JR 京浜東北線、東京メトロ南北線、東京さくらトラム（都電荒川線）の3路線が乗り入れるとともに、高速も含めて多くのバス路線が集積する北区の交通結節点となっています。
- 地域に密着した個性豊かな商店街があり、さまざまな取組みが行われています。
- 王子駅周辺は、公共施設や業務施設が多く立地する拠点となっています。
- 河川沿いに大規模工場が立地しています。

うるおいとやすらぎ

- 荒川・隅田川河川敷に広がる緑地や石神井川の水辺空間など、水辺やみどりに恵まれた環境が広がっています。
- 飛鳥山公園は江戸時代から桜の名所として知られ、明治時代には日本初の太政官公園となりました。また、日本資本主義の父と称される渋沢栄一翁終焉の地でもあります。
- 豊島馬場遺跡公園には、古墳時代の初め頃につくられた集落の遺跡があります。
- 中世の豪族、豊島清光[※]が娘の冥福を祈り建立したとされる清光寺や、紀州熊野の住民であった鈴木重尚[※]が豊島氏とともに王子村に勧請し、後に今の場所に移されたとされる紀州神社、豊島清泰（豊島清光の子）を祀っているとされる若宮八幡神社など、豊島氏とのゆかりの深い寺社が数多くあります。
- 江戸六阿弥陀巡礼の一番目として知られる西福寺、大晦日の夜、王子稻荷に参拝する狐が衣裳を整える榎の木（装束榎）が社名の由来となっている装束稲荷神社、十二天塚があることから十二社と呼ばれていた船方神社など、まちの歴史や文化を感じられる地域資源が地元の人々によって受け継がれています。
- 日本最初の教科書図書館であり、建物が北区指定文化財となっている東書文庫があります。



東書文庫

人と人のつながり

- 地域密着型の商店街などがあり、日常的な暮らしの中に溶け込んでいるなど、人と人のつながりの強いまちとなっています。
- 中学校跡地を活用したココキタ[※]などでは、文化芸術活動を通じた地域住民同士による交流が行われています。



文化芸術活動拠点（ココキタ）

(2) まちづくりの課題

- ・ 北区役所新庁舎の整備を契機として、高い交通結節機能を活かしたにぎわいの創出を進めていくことが求められています。
- ・ 大規模工場と住居の共存を図り、地域に根付いた産業を継承していく必要があります。
- ・ 王子駅周辺のまちづくりにあわせた交通結節機能の更なる強化や、王子駅を中心とした地域の回遊性向上が求められています。
- ・ 水辺やみどりに恵まれた環境を保全・整備するとともに、その空間を活用していくことが求められています。
- ・ 地区内に数多く残る史跡などの歴史・文化を活かしたまちづくりを展開するとともに、次世代に継承し、あわせてその魅力を区内外に発信していく必要があります。
- ・ 商店街においては、空き店舗の活用などにより、にぎわいの維持・活性化を図るとともに、地域の交流の場としていくことが求められています。
- ・ 豊島や堀船などの木造住宅密集地域では、オープンスペースの確保や老朽建築物の更新などによる防災まちづくりが求められています。

(3) まちの将来像

多様な機能が集積する、交流のあるまち「王子東」

～・～・将来像の解説・～・～

- ・ 公共・業務機能の集積や地域に密着した商店街が見られることから、王子駅などの交通結節機能をより強化することで、鉄道駅を中心とした多様な機能が集積する市街地の形成を目指します。
- ・ 交通結節点として多くの人が集まることから、業務目的だけでなく、地域の自然環境や歴史・文化を活かした交流による新たな価値が創出される市街地の形成を目指します。

(4) 取組方針

◆土地利用

■王子駅周辺まちづくりの推進

- ・ 「王子駅周辺まちづくりグランドデザイン」に基づくまちづくりを推進し、商業・業務を中心としつつ、住宅なども含む複合的な機能が集積する都市中心拠点としてふさわしいにぎわいのある市街地の形成を図ります。
- ・ 王子駅周辺まちづくりを契機とした、高度利用の促進や民間開発の誘導を進め、都市機能の更新を図ることで、にぎわいを創出します。

- 新庁舎の整備を契機としたにぎわいづくり
 - ・誰もが安全・快適に利用できる北区のシンボルとなる新庁舎の整備を図ります。また、新庁舎の整備を契機とした交流の促進やにぎわいの創出を図ります。
- 豊島地区における良好な土地利用の誘導
 - ・地区計画に基づく適切な土地利用を誘導し、産業機能と居住機能が共存する複合的な市街地の形成を図ります。
- 環状7号線沿道土地利用の誘導
 - ・沿道地区計画に基づく適切な土地利用を誘導し、幹線道路の沿道にふさわしい土地利用と環境の整備を図ります。

◇おでかけ環境

- 王子駅周辺の交通結節機能の強化や回遊性の向上
 - ・周辺街区の機能更新にあわせた駅前広場の整備や鉄道駅の利便性向上を促進し、交通結節機能を強化するとともに、駅周辺の歩行者空間の拡充などにより、王子駅を中心とした回遊性を高めることで歩きたくなる環境整備を推進し、快適で利便性の高い交通環境の形成を図ります。
- 王子駅周辺の駐輪対策の推進
 - ・民間事業者などと協力しながら、誰もが利用しやすい駐輪場整備など駐輪対策を促進することで、快適な自転車利用環境の形成を図ります。
- 王子駅周辺のバリアフリー化
 - ・王子駅周辺におけるバリアフリー化を推進することで、安全で快適に利用できる交通環境の形成を図ります。
 - ・新庁舎の整備にあわせて、周辺環境のバリアフリー化を行い、王子駅から新庁舎まで誰もが安心して移動できる歩行環境の整備を図ります。
- 東十条駅周辺のバリアフリー化
 - ・東十条駅周辺におけるバリアフリー化を推進することで、安全で快適に利用できる交通環境の形成を図ります。
- 東十条駅周辺の整備
 - ・旧下十条運転区跡地を含む東十条駅周辺の整備を促進するとともに、道路拡幅の整備計画を検討し、防災性の向上や地域交通ネットワークを構築し、安全で利便性の高い交通環境の形成を図ります。
- 道路整備の推進
 - ・補助 88 号線などの都市計画道路をはじめとした道路整備を推進し、快適で利便性の高い交通環境の形成を図ります。
- 橋梁の架替の推進
 - ・隅田川の新田橋、石神井川整備工事にあわせて新柳橋、豊石橋、新堀橋などの橋梁の架替整備事業の推進を図ります。

◇交流を育む魅力

■みどりの協定などによるまちなかの緑化の推進

- ・住民や事業所などによるみどりの維持管理や緑化を促進し、みどり豊かな市街地の形成を図ります。

■公園・緑地の整備の推進

- ・柳田公園など公園や緑地の保全・整備を推進するとともに、更なる公園・緑地の確保を図ります。

■飛鳥山公園の整備・更新の推進

- ・北区を代表し、渋沢栄一翁にゆかりの深い飛鳥山公園の整備・更新を推進し、みどりや歴史・文化を継承する環境の保全・形成を図ります。



飛鳥山公園



渋沢史料館

■東十条一丁目地区、東十条二丁目地区における緑化の推進

- ・緑化推進モデル地区に指定しており、緑化を促進することで、みどり豊かな地区の形成を図ります。

■荒川河川敷の整備の推進

- ・荒川緑地（豊島ブロック）の整備に向けた基本計画を策定し、隅田川の水辺との一体的な活用など、良好な水辺空間の形成を図ります。

■廃線跡地の遊歩道の整備

- ・旧北王子支線跡地に遊歩道を整備し、鉄道の名残をとどめる産業遺産としても活用を図ります。

■隅田川沿川地区の良好な景観づくりの推進

- ・景観形成重点地区である隅田川沿川地区では、北区景観づくり計画の景観形成基準に基づき、水辺の開放感と歴史を感じる豊かな都市文化と調和した隅田川らしい景観の保全・形成を促進します。

■沿川における散策ネットワークの形成

- ・河川沿川の散策路の整備を推進するとともに、鉄道駅からのアクセス路の歩行環境の整備を進めることで、荒川、隅田川や石神井川の水辺を活かした快適な散策ネットワークの形成を図ります。

◇住環境

■高齢者も安心して生活できる住環境の整備

- ・福祉施設の整備を促進するとともに、良好な住宅ストックの有効活用や適切な維持管理、防災・防犯性の向上など、高齢者も安心して生活できる住環境の形成を図ります。

■無電柱化事業の推進

- ・王子駅周辺のまちづくりや補助 85 号線（王子警察署・豊島公園前）など既存道路の再整備などにあわせた無電柱化を推進し、沿道の建物や街路樹が映えるまちなみを創出します。

◇環境共生

■ 土壌汚染対策の普及・啓発

- ・エコベルデ（みどりと環境の情報館）※における土壌汚染対策や、みどりをはじめとした自然環境に関する情報の普及・啓発、学習講座の実施などを推進し、環境と共生したまちづくりに向けた区民の理解促進を図ります。

■ 石神井川的环境保全

- ・石神井川の水質改善やみどりの適切な維持管理を進め、生物多様性に配慮した水辺空間・親水空間の保全を進めます。

■ 水辺・みどりの保全によるヒートアイランド現象の緩和

- ・荒川、隅田川、石神井川などの水辺や緑地の保全・創出を進めることで、ヒートアイランド現象による気温上昇の抑制を図ります。
- ・石神井川沿川などにおける緑陰を確保することで、熱負荷を軽減した快適な市街地の形成を図ります。

◇災害対応

■ 防災拠点の整備

- ・新庁舎の整備においては、防災拠点として災害対策機能を有するとともに、発災後の生活に必要な行政機能が継続できる環境づくりを図ります。また、低地に立地することから、水害発生を想定した機能配置を図ります。
- ・東十条地区においては、東十条小学校、区民センター、総合病院が集積する特性を活かした各施設の連携による防災拠点としての活用について検討します。
- ・災害が発生した際に災害ボランティアセンターの設置候補地となっているエコベルデ（みどりと環境の情報館）においては、平時においても防災訓練などの場として活用を図ります。

■ 木造住宅密集地域の改善

- ・豊島地区や堀船地区などの木造住宅密集地域においては、不燃化・耐震化を促進するとともに避難路や緊急車両の通行路の確保を進め、安全な市街地の形成を図ります。

■ 水害対策の推進

- ・荒川における高規格堤防整備事業及び隅田川におけるスーパー堤防整備事業を促進し、水害への対応力を高めるとともに、その機会を活用した親水空間の整備を進め、魅力ある水辺空間の形成を図ります。
- ・低地部における大規模水害時の対応として、既施設及び新たに建設予定の施設などに対し、水害時垂直避難施設の確保を促進します。
- ・隣接区とも連携しながら、水害時に安全に避難できる適切な避難場所について検討します。

■ 防災船着場の整備及び平時からの活用

- ・防災船着場の整備を進めるとともに、災害時の円滑な利用に向け、平時からの利用を促進することで、災害時にも安定した水上輸送路の確保を図ります。

■ 避難路・輸送路の確保

- ・王子駅周辺のまちづくりや補助 85 号線（王子警察署・豊島公園前）など既存道路の再整備などにあわせた無電柱化を進めます。
- ・緊急輸送道路沿道における建築物の耐震化を促進し、緊急輸送道路ネットワークの確保を図ります。

王子東地区まちづくり方針図

【将来像】

多様な機能が集積する、交流のあるまち「王子東」

隅田川

- ・新田橋の架替
- ・沿川地区の景観づくりの推進
- ・散策ネットワークの形成

荒川河川敷

- ・良好な水辺空間の形成

石神井川

- ・新柳橋、豊石橋、新堀橋の架替
- ・親水性の向上

東十条駅

- ・駅周辺整備の推進
- ・バリアフリー化の推進

王子駅

- ・新庁舎移転を契機としたまちづくりの推進
- ・交通結節機能の強化
- ・回遊性の向上
- ・駐輪対策の推進
- ・バリアフリー化の推進



取組方針

◆土地利用

- 王子駅周辺まちづくりの推進
- 新庁舎の整備を契機としたにぎわいづくり
- 豊島地区における良好な土地利用の誘導
- 環状7号線沿道土地利用の誘導

◇おでかけ環境

- 王子駅周辺の交通結節機能の強化や回遊性の向上
- 王子駅周辺の駐輪対策の推進
- 王子駅周辺のバリアフリー化
- 東十条駅周辺のバリアフリー化
- 東十条駅周辺の整備
- 道路整備の推進
- 橋梁の架替の推進

◇交流を育む魅力

- みどりの協定などによるまちなかの緑化の推進
- 公園・緑地の整備の推進
- 飛鳥山公園の整備・更新の推進
- 東十条一丁目地区、東十条二丁目地区における緑化の推進
- 荒川河川敷の整備の推進
- 廃線跡地の遊歩道の整備
- 隅田川沿川地区の良好な景観づくりの推進
- 沿川における散策ネットワークの形成

◇住環境

- 高齢者も安心して生活できる住環境の整備
- 無電柱化事業の推進

◇環境共生

- 土壌汚染対策の普及・啓発
- 石神井川の環境保全
- 水辺・みどりの保全によるヒートアイランド現象の緩和

◇災害対応

- 防災拠点の整備
- 木造住宅密集地域の改善
- 水害対策の推進
- 防災船着場の整備及び平時からの活用
- 避難路・輸送路の確保

凡 例

土地利用

- 都市機能集積ゾーン
- 居住ゾーン（中高層）
- 複合共生ゾーン
- 居住ゾーン（低中層）
- 幹線道路沿道ゾーン
- 産業保全ゾーン
- 教育施設
- 水辺空間

鉄道

- JR
- 東京メトロ・都営地下鉄・日暮里舎人ライナー
- 東京さくらトラム（都電荒川線）

道路

- 完成・事業中 未整備
- 主要幹線道路
- 幹線道路
- 地区幹線道路
- 主要生活道路
- 首都高速道路

地域資源

- ☆ 文化・社会教育施設
- 寺院
- 神社
- 公共防災船着場
- 公園・緑地（都市計画含む）
- 水辺空間
- 散策のネットワーク

5－8 王子西地区のまちづくり方針

(1) まちの特徴

ひと

- ・ 2006 年からの人口増加率が、北区全体と比較して低く、特に働き盛りの世代である生産年齢人口は 2.1%減少しています。
- ・ 単独世帯が半数を超え、北区全体と比較して多い一方で、子どもがいる世帯や夫婦のみ世帯が少なくなっています。
- ・ 2023 年以降、人口は減少に転じると見込まれています。
- ・ 2023 年まで世帯数、2028 年まで年少人口は増加が見込まれています。

なりたち

- ・ 江戸時代に日光御成道が整備され、不動の滝をはじめとする王子七滝は、江戸近郊の行楽地として親しまれてきました。
- ・ 明治時代には十条駅が開設され、市街化の基礎が築かれていきました。軍事施設や工場、住宅が増え、戦前には十条銀座商店街なども形成されました。
- ・ 関東大震災後、市街化が加速して木造住宅密集地域が形成され、王子駅周辺を除き戦災を免れたため、基盤が未整備のまま今日に至っており、防災まちづくりの取り組みが行われています。
- ・ 軍用地跡には、自衛隊十条駐屯地や学校などの大規模な施設が集積し、中央公園も整備されました。
- ・ JR 埼京線十条駅付近の連続立体交差化や駅周辺の市街地再開発事業に向けた取り組みが進められています。



音無もみじ緑地



篠原演芸場



王子稲荷神社

王子西
地区



王子神社

職と生活

- JR 埼京線十条駅、JR 京浜東北線東十条駅を中心として商店街が集積した地区であり、2路線が利用できる交通利便性が高い地区となっています。
- 商店街が集積しており、地域に愛される身近な買い物環境が形成されています。

うるおいとやすらぎ

- 緑豊かな中央公園、音無親水公園、名主の滝公園、清水坂公園、石神井川の水辺空間と四季折々の自然が楽しめる公園が多数立地しています。また、中央公園には北区指定文化財である赤羽台第3号古墳石室が移設されています。
- 中世の熊野信仰の拠点であり「王子」の地名の由来となった王子神社、門前に鎌倉街道の地蔵様と呼ばれる地蔵尊がある地蔵寺、江戸時代より親しまれ関東稲荷総社の格式を持つ王子稲荷神社など、古くから親しまれてきた多くの寺社があります。
- 江戸時代には、境内が不動の滝の行楽客で賑わった正受院、新選組の近藤勇及びその隊士を弔う寺として知られる寿徳寺など、まちの歴史を感じられる地域資源が残っています。
- 中世芸能を今に伝える、全国的にも稀有な北区指定無形民俗文化財「王子田楽舞」や、北区の年末の恒例となっている「狐の行列」、「十条富士神社大祭（お富士さん）」など、地域に根付いた行事が数多く行われているほか、23区内では数少ない大衆演劇場のひとつである篠原演芸場は、多くのファンに支えられています。
- 東京都障害者総合スポーツセンターが立地しており、障害があってもスポーツを楽しめる環境があります。



王子神社田楽舞

人と人のつながり

- 地域密着型の商店街などがあり、日常的な暮らしの中に溶け込んでいるなど、人と人のつながりの強いまちとなっています。
- 複数の大学が立地しており、十条銀座商店街などと連携した取組みなどが行われています。
- 北区役所や中央公園文化センター、図書館が立地しており、日常生活の利便性が高くなっています。



中央図書館

(2) まちづくりの課題

- ・地域の交通利便性や安全性の向上、地域の一体化を図るために、JR 埼京線十条駅付近の連続立体交差化を進めるとともに、十条駅や東十条駅を中心とした駅周辺まちづくりの推進が求められています。また、安全で快適な市街地の形成に向けて、連続立体交差化にあわせた道路整備を進める必要があります。
- ・数多く残る歴史・文化資源を次世代に継承しながら、区内外に発信していく必要があります。
- ・緑豊かで四季折々の自然が楽しめる公園の魅力を、区内外に発信していく必要があります。
- ・スポーツを通じた交流や相互理解を育み、誰もが運動を通じた健康づくりができる環境が求められています。
- ・商店街においては、空き店舗の活用などにより、にぎわいの維持・活性化を図るとともに、地域の交流の場としていくことが求められています。
- ・十条駅周辺に広がる木造住宅密集地域では、都市計画道路や主要生活道路の整備、オープンスペースの確保、老朽建築物の更新などによる防災まちづくりが求められています。

(3) まちの将来像

地域に根付いた文化と、にぎわいのあるまち「王子西」

～・・・将来像の解説・・・～

- ・木造住宅密集地域の改善を進めるとともに、地域に密着した商店街や、地域で育まれてきた歴史・文化資源を活かした安全でにぎわいのある市街地の形成を目指します。
- ・豊かなみどりや、スポーツが楽しめる環境を活かした新たな交流とにぎわいが生まれる市街地の形成を目指します。

(4) 取組方針

◆土地利用

■十条駅西口地区における市街地再開発事業の推進

- ・市街地再開発事業を契機とした高度利用を促進し、安全で利便性の高いにぎわいのある市街地の形成を図ります。
- ・民間開発の誘導を進め、都市機能の更新を図ることで、にぎわいを創出します。

■ 十条地区における良好な土地利用の誘導

- ・ 十条駅周辺に広がる木造住宅密集地域においては、地区計画に基づき幹線道路沿いの土地の適切な高度利用と不燃化を図るとともに防災まちづくりを推進し、安全性の高いにぎわいのある市街地の形成を図ります。

■ 環状 7 号線沿道土地利用の誘導

- ・ 沿道地区計画に基づく適切な土地利用を誘導し、幹線道路の沿道にふさわしい土地利用と環境の整備を図ります。

■ 区庁舎跡地利活用の検討

- ・ 庁舎移転に伴う現在の区庁舎跡地については、適切な利活用を図ります。

◇ おでかけ環境

■ 十条駅周辺の交通結節機能の強化

- ・ 十条駅西口地区における市街地再開発事業にあわせた駅前広場の整備を推進するとともに、駐輪場などを整備することで、快適で利便性の高い交通結節機能の形成を図ります。

■ 十条駅付近の連続立体交差化の推進

- ・ JR 埼京線十条駅付近の連続立体交差化を促進するとともに、鉄道附属街路や補助 85 号線の整備を進め、安全で快適な市街地の形成を図ります。

■ 道路整備の推進

- ・ 補助 73 号線、補助 83 号線、補助 85 号線、補助 87 号線、鉄道附属街路の整備、中央図書館前通りなどの拡幅、整備を推進し、安全で利便性の高い交通環境の形成を図ります。
- ・ 幹線道路などにおいては、道路管理者や交通管理者と連携しながら、歩行者が安全に通行できる環境づくりを進めます。

■ 駅周辺における駐輪対策の推進

- ・ 王子駅や十条駅周辺においては、民間事業者などとも協力しながら、誰もが利用しやすい駐輪場の整備など駐輪対策を促進することで、快適な自転車利用環境の形成を図ります。

■ 十条跨線橋の架替と駅前のバリアフリー化

- ・ 十条跨線橋の架替にあわせて、東十条駅前のバリアフリー化を推進し、誰もが安心して利用できる交通環境の形成を図ります。

■ 東十条駅周辺の整備

- ・旧下十条運転区跡地を含む東十条駅周辺の整備を促進するとともに、道路拡幅の整備計画を検討し、防災性の向上や地域交通ネットワークを構築し、安全で利便性の高い交通環境の形成を図ります。

◇ 交流を育む魅力

■ みどりの協定などによるまちなかの緑化の推進

- ・民間事業者や区民による緑化を促進し、みどり豊かな市街地の形成を図ります。

■ みどりと歴史・文化を継承する公園の整備・更新の推進

- ・石神井川の水辺環境を保全するとともに、名主の滝公園の再生整備を推進することで、みどりと歴史・文化を継承する環境の保全・形成を図ります。



中央公園

■ 中央公園周辺地区の良好なまちなみの保全・形成

- ・景観形成重点地区である中央公園周辺地区では、北区景観づくり計画の景観形成基準に基づき、みどり豊かなゆとりある良好なまちなみの保全・形成を促進するとともに、さらなる魅力の向上を図ります。



石神井川

■ 石神井川の遊歩道の整備の推進

- ・石神井川の水辺環境を保全するとともに、遊歩道の整備を推進することで、王子駅を中心とした快適な散策ネットワークの形成を図ります。

◇ 住環境

■ まちづくりと連携した商店街のにぎわいづくり

- ・十条駅周辺などの商店街においては、道路整備などを契機とした更なる商店街のにぎわいづくりを促進するとともに、空き店舗などを活用した開業促進や地域交流の場の形成による居場所づくりを進めることで、商店街の活性化を図ります。

■ 学校の再配置の検討

- ・小学校の再配置について検討を進め、快適な教育環境の形成を図ります。

■ 無電柱化事業の推進

- ・補助 87 号線や中央図書館前通りの整備、十条駅西口地区市街地再開発事業にあわせた北区画街路 7 号線の整備、J R 埼京線十条駅付近の連続立体交差化にあわせた鉄道附属街路事業などにあわせた無電柱化を推進し、沿道の建物や街路樹が映えるまちなみを創出します。

◇環境共生

■石神井川の環境保全

- ・石神井川の水質改善やみどりの適切な維持管理を進め、生物多様性に配慮した水辺空間・親水空間の保全を進めます。

■水辺・みどりの保全によるヒートアイランド現象の緩和

- ・石神井川などの水辺や緑地の保全・創出を進めることで、ヒートアイランド現象による気温上昇の抑制を図ります。
- ・石神井川沿川などにおける緑陰を確保することで、熱負荷を軽減した快適な市街地の形成を図ります。

◇災害対応

■十条地区における防災まちづくりの推進

- ・木造住宅密集地域においては、老朽建築物の更新を図るとともに、道路や公園・広場の整備を推進し、安全な市街地の形成を図ります。
- ・上十条三・四丁目地区においては、防災街区整備地区計画に基づき、適切な土地利用などを誘導し、地区特性に応じた快適で安全な市街地の形成を図ります。

■補助 73 号線の整備

- ・延焼遮断機能の形成、災害時における安全な避難路の確保及び緊急車両の通路確保により、救助・救援活動などを円滑に行えるようにするため整備を促進します。
- ・道路事業にあわせて、都市防災不燃化促進事業などによる沿道の不燃化を促進し、延焼遮断機能の形成を進めます。

■幹線道路沿道における建築物の不燃化の促進

- ・補助 83 号線、補助 85 号線においては、都市防災不燃化促進事業などによる沿道建築物の不燃化を促進することで、延焼遮断帯や安全な避難路の形成を図ります。

■避難路・輸送路の確保

- ・補助 87 号線や中央図書館前通りの整備にあわせた無電柱化を推進し、災害時の避難・救護活動を遮らない安全な市街地の形成を図ります。
- ・J R 埼京線十条駅付近の連続立体交差化にあわせた鉄道附属街路事業において、無電柱化を推進し、災害時の避難・救護活動を遮らない安全な市街地の形成を図ります。
- ・緊急輸送道路沿道における建築物の耐震化を促進し、緊急輸送道路ネットワークの確保を図ります。

王子西地区まちづくり方針図

【将来像】

地域に根付いた文化と、にぎわいのあるまち「王子西」



取組方針

◆土地利用

- 十条駅西口地区における市街地再開発事業の推進
- 十条地区における良好な土地利用の誘導
- 環状 7 号線沿道土地利用の誘導
- 区庁舎跡地利活用の検討

◇おでかけ環境

- 十条駅周辺の交通結節機能の強化
- 十条駅付近の連続立体交差化の推進
- 道路整備の推進
- 駅周辺における駐輪対策の推進
- 十条跨線橋の架替と駅前のバリアフリー化
- 東十条駅周辺の整備

◇交流を育む魅力

- みどりの協定などによるまちなかの緑化の推進
- みどりと歴史・文化を継承する公園の整備・更新の推進
- 中央公園周辺地区の良好なまちなみの保全・形成
- 石神井川の遊歩道の整備の推進

◇住環境

- まちづくりと連携した商店街のにぎわいづくり
- 学校の再配置の検討
- 無電柱化事業の推進

◇環境共生

- 石神井川の環境保全
- 水辺・みどりの保全によるヒートアイランド現象の緩和

◇災害対応

- 十条地区における防災まちづくりの推進
- 補助 73 号線の整備
- 幹線道路沿道における建築物の不燃化の促進
- 避難路・輸送路の確保

凡 例

土地利用

- 都市機能集積ゾーン
- 居住ゾーン（中高層）
- 複合共生ゾーン
- 居住ゾーン（低中層）
- 幹線道路沿道ゾーン
- 教育施設
- その他

鉄道

- JR
- 東京メトロ・都営地下鉄・日暮里舎人ライナー
- 東京さくらトラム（都電荒川線）

道路

- 完成・事業中 未整備
- 主要幹線道路
- 幹線道路
- 地区幹線道路
- 主要生活道路

地域資源

- 文化・社会教育施設
- 寺院
- 神社
- 公園・緑地（都市計画含む）
- 水辺空間
- 散策のネットワーク

5－9 滝野川東地区のまちづくり方針

(1) まちの特徴

ひと

- ・ 2006 年から 2016 年にかけての人口増加率が区内でも高く、特に生産年齢人口の増加率が 15.8%と非常に高くなっており、働き盛りの世代を中心に人口が増加しています。
- ・ 区内でも単身世帯の割合が高くなっています。
- ・ 2033 年まで人口、世帯ともに増加傾向が続くと見込まれています。

なりたち

- ・ 江戸時代には、近郊の農村として田畑が広がっており、貝塚が露出していました。
- ・ 明治時代には田端駅が開設されるとともに市街化が進み、大正時代には鉄道操車場が整備されました。また、同時期に王子電気軌道（後の都電）が整備され、路面電車が走るまちでしたが、現在では東京さくらトラム（都電荒川線）だけが存続しています。
- ・ 関東大震災後、人口が急増し木造住宅密集地域が広がりました。また、戦前には、昭和町・田端新町周辺で土地区画整理事業が行われ、都市基盤の整備が進みました。
- ・ 戦後には、ものづくりが盛んになる中で、工作機械などの町工場が集積する市街地が形成されましたが、近年マンションへの土地利用転換が進んでいます。
- ・ 東北新幹線の開業にあわせて操車場が整備され、停車中の多様な新幹線が見られます。



東京新幹線車両センター



中里貝塚の貝層断面



鉄道のある風景



【出典】北区 HP

職と生活

- 都心に近接した環境で、ほぼ全域が JR 尾久駅、上中里駅、田端駅から 500m の徒歩圏域にあり、鉄道駅へのアクセスが高くなっています。また、地区を縦断している明治通りには多くのバス路線が通り、交通利便性が一層高くなっています。
- 駅周辺や明治通り沿いには連続して商店があり、身近な生活を支えています。
- 区域の多くを占める鉄道操車場に関連した事業所が集積しており、また、明治通り沿いには機工街の趣が残る町工場や流通施設が立地しています。



明治通り

うるおいとやすらぎ

- 国指定の史跡であり、国内最大規模を誇る貝塚である中里貝塚や、太田道灌が江戸城築城の際に方除け守護神として祀った東灌森稲荷神社の赤鳥居があります。
- 東京さくらトラム（都電荒川線）が区内を走るとともに鉄道操車場もあり、停車中の多様な新幹線など鉄道のある特徴的なまちなみや風景がみられます。



商店街と都電

人と人のつながり

- 上中里における、大人が昔遊んだ遊びを通して子どもたちをはじめとした地域交流を図る遊び道場など、顔の見える関係づくりが行われています。
- JR 東日本の尾久車両センターや東京新幹線車両センターなど、鉄道風景を楽しめるスポットが数多くあり、例年、鉄道を通じたイベントが開催され多くの人々が参加しています。



駐輪場の上部にある電車のモニュメント

(2) まちづくりの課題

- ・ 田端駅周辺の既存の業務機能の維持を図るとともに、商業施設や住宅など、多様な機能が集積する複合拠点の育成が必要です。
- ・ 集積している既存の事業所の操業環境の保全を図り、周辺の住宅とともに住・工が共存した市街地の形成が求められています。
- ・ 地区内を縦貫する明治通りに沿ってバス路線が通っている一方で、台地に沿った鉄道や操車場により分断されていることから、西側の台地部へと移動できる東西を結ぶ動線の確保が求められています。
- ・ 地域に根付いた歴史・文化資源を次世代に継承しながら、区内外に発信していく必要があります。特に中里貝塚については、その価値を広めていくことが重要です。
- ・ 商店街においては、空き店舗の活用などにより、にぎわいの維持・活性化を図るとともに、地域の交流の場としていくことが求められています。
- ・ 栄町や上中里などの木造住宅密集地域では、オープンスペースの確保や老朽建築物の更新などによる防災まちづくりが求められています。
- ・ 地区全域が低地であることから、水害危険性の周知を図るとともに、水害発生時の台地部への避難路の確保が求められています。

(3) まちの将来像

地域に根付いた、鉄道を中心とした多様なにぎわいのあるまち 「滝野川東」

～・～・将来像の解説・～・～

- ・ 鉄道操車場に関連した事業所や明治通り沿いの町工場や流通施設、地域のくらしを支える商店街などを活かして、地域に根付いた多様なにぎわいのある市街地の形成を目指します。
- ・ 中里貝塚などの歴史・文化資源の保存・活用や東京さくらトラム（都電荒川線）・鉄道操車場などの鉄道が映える景観を活かした魅力ある市街地の形成を目指します。

(4) 取組方針

◆土地利用

■田端駅周辺のまちづくりの推進

- ・合理的な土地の高度利用を促進するとともに、商業・業務機能の集積を促進し、都市中心拠点としてふさわしい活気ある良好な市街地の形成を図ります。

■鉄道操車場の長期的な土地利用方針の検討

- ・地区の多くを占める鉄道操車場の長期的な土地利用方針について検討します。



田端駅周辺

■住・工が共存したまちづくりの推進

- ・工場の操業環境の保全に配慮しつつ、住宅などへの土地利用転換に際しては適切な誘導を行い、住・工が共存する市街地の形成を図ります。

◇おでかけ環境

■尾久駅・上中里駅の交通結節機能の向上

- ・隣接する道路の拡幅整備などを契機として、交通結節機能の向上を図ります。

■道路整備の推進

- ・東京さくらトラム（都電荒川線）と関連する補助 90 号線などの都市計画道路をはじめとした道路整備を推進し、快適で利便性の高い交通環境の形成を図ります。

■総合的な駐輪対策の推進

- ・田端駅、尾久駅、上中里駅周辺などにおいては、民間事業者などと協力しながら、誰もが利用しやすい駐輪場の整備など駐輪対策を促進することで、快適な自転車利用環境の形成を図ります。

■田端駅周辺のバリアフリー化

- ・鉄道駅のバリアフリー化を促進するとともに、鉄道駅周辺の道路環境のバリアフリー化も進め、安全で快適に利用できる交通環境の形成を図ります。

◇交流を育む魅力

■公園の整備・改修の推進

- ・既存の公園の改修を進めるとともに、不足する公園・緑地の確保を図ります。

■史跡を活かした環境づくりの推進

- ・国史跡である中里貝塚を活かしたまちづくりを推進し、歴史と文化を感じられる市街地の形成を図ります。

■鉄道の映えるまちなみの保全・形成

- ・東京さくらトラム（都電荒川線）や鉄道操車場など鉄道のある特徴的な景観資源を活かしたまちづくりを推進するとともに、周辺の緑化などを促進することで、四季が感じられ車両が映えるまちなみの保全・形成を図ります。



中里貝塚貝層剥ぎ取り標本【飛鳥山博物館】

◇住環境

■公営住宅のストック活用の推進

- ・公営住宅の長寿命化を図るとともに、良好な住宅ストックを活用し、多様なライフスタイルを支える住環境の形成を図ります。

■高齢者も安心して生活できる住環境の整備

- ・区営シルバーピアの建設を推進し、高齢者も安心して生活できる住環境の形成を図ります。

◇環境共生

■みどりの確保によるヒートアイランド現象の緩和

- ・広大な面積を占める鉄道操車場や民有地などの緑化を進めるとともに、不足している公園・緑地の整備を進め、ヒートアイランド現象による気温上昇の抑制を図ります。
- ・街路樹の整備・更新などによる連続的な緑陰を確保することで、熱負荷を軽減し、環境と共生した市街地の形成を図ります。

◇災害対応

■ 栄町や上中里周辺の防災まちづくりの推進

- ・ 木造住宅密集地域においては、老朽建築物の更新を促進するとともに、地域の災害対応力の強化を進めることで、安全な市街地の形成を図ります。

■ 鉄道操車場への避難路の確保

- ・ 避難場所となっている鉄道操車場へとアクセスする道路のバリアフリー化など、安全な避難路の確保を図ります。

■ 浸水などを想定した東西動線の確保

- ・ 大規模水害などの際に西側の台地部への避難路など、安全な動線の確保を進めます。

■ 水害対策の推進

- ・ 低地部における大規模水害時の対応として、既施設設及び新たに建設予定の施設などに対し、水害時垂直避難施設の確保を促進します。
- ・ 隣接区とも連携しながら、水害時に安全に避難できる適切な避難場所について検討します。

■ 避難路・輸送路の確保

- ・ 緊急輸送道路沿道における建築物の耐震化を促進し、緊急輸送道路ネットワークの確保を図ります。



上中里さわやか橋



車坂跨線人道橋エレベーター



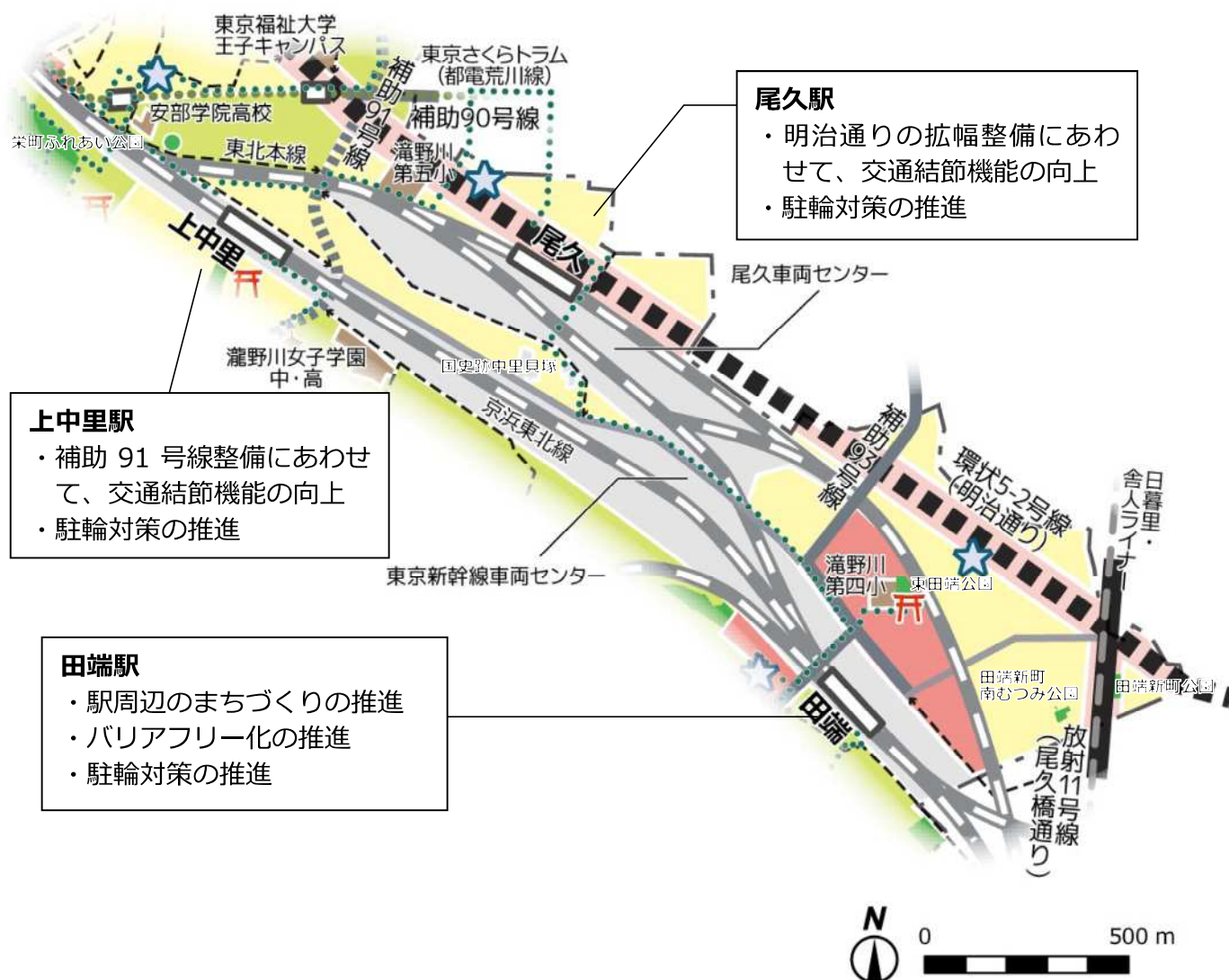
上中里さわやか橋から見る鉄道操車場

滝野川東地区まちづくり方針図

【将来像】

地域に根付いた、鉄道を中心とした多様なにぎわいのあるまち

「滝野川東」



取組方針

◆土地利用 ■ 田端駅周辺のまちづくりの推進 ■ 鉄道操車場の長期的な土地利用方針の検討 ■ 住・工が共存したまちづくりの推進
◇おでかけ環境 ■ 尾久駅・上中里駅の交通結節機能の向上 ■ 道路整備の推進 ■ 総合的な駐輪対策の推進 ■ 田端駅周辺のバリアフリー化
◇交流を育む魅力 ■ 公園の整備・改修の推進 ■ 史跡を活かした環境づくりの推進 ■ 鉄道の映えるまちなみの保全・形成
◇住環境 ■ 公営住宅のストック活用の推進 ■ 高齢者も安心して生活できる住環境の整備
◇環境共生 ■ みどりの確保によるヒートアイランド現象の緩和
◇災害対応 ■ 栄町や上中里周辺の防災まちづくりの推進 ■ 鉄道操車場への避難路の確保 ■ 浸水などを想定した東西動線の確保 ■ 水害対策の推進 ■ 避難路・輸送路の確保

凡 例

土地利用

- 都市機能集積ゾーン
- 複合共生ゾーン
- 居住ゾーン（低中層）
- 幹線道路沿道ゾーン
- 教育施設
- その他

鉄道

- JR
- 東京メトロ・都営地下鉄・日暮里舎人ライナー
- 東京さくらトラム（都電荒川線）

道路

- 完成・事業中 未整備
- 主要幹線道路
- 幹線道路
- 地区幹線道路
- 主要生活道路

地域資源

- 文化・社会教育施設
- 神社
- 公園・緑地（都市計画含む）
- 散策のネットワーク

5-10 滝野川西地区のまちづくり方針

(1) まちの特徴

ひと

- ・ 2006 年から 2016 年にかけての人口増加率が区内でも高く、特に生産年齢人口の増加率が 10.2%と非常に高くなっており、働き盛りの世代を中心に人口が増加しています。
- ・ 2033 年まで人口、世帯ともに増加傾向が続くと見込まれています。

なりたち

- ・ 江戸時代には近郊農村地であり、滝野川にんじんや滝野川ごぼうなど、江戸に向けた野菜や種子の生産が盛んでした。また、飛鳥山の桜や滝野川の紅葉など、江戸郊外の実験地として栄えました。
- ・ 明治時代には、石神井川沿川に工場の集積が進み、軍事工場も建設されました。この時期に田端駅が開設され、市街化が進みました。
- ・ 大正時代に芥川龍之介や室生犀星などが田端に住むようになると、文士や芸術家が集まり住むようになり、田端文士芸術家村が形成されました。
- ・ 関東大震災後、山手線外側にも市街化が拡大し、木造住宅密集地域が形成されました。
- ・ 戦後には、軍事工場跡地に学校や病院、集合住宅などが建設されました。田端駅や板橋駅の周辺、中里では土地区画整理事業が行われ都市基盤の整備が進み、1968 年には都営三田線、1991 年には東京メトロ南北線が開通するなど交通利便性の高いまちとなっています。
- ・ 農業技術研究所や東京外国語大学の跡地には、防災機能を考慮した公園が整備されています。



西ヶ原一里塚



東覚寺の石造金剛力士立像



旧古河庭園



職と生活

- JR、東京メトロ南北線、都営三田線、東京さくらトラム（都電荒川線）が通っており、都心に移動しやすいまちとなっています。
- 板橋駅や駒込駅周辺など住宅地に近接して商店街が立地していることで、身近な場所で買い物ができ、地域のくらしが支えられています。

うるおいとやすらぎ

- 桜の名所である飛鳥山公園や国指定名勝の旧古河庭園などの歴史的な公園・庭園があるとともに、石神井川沿いの緑地や遊歩道など、うるおいのある環境となっています。
- 国の機関の移転跡地には、防災にも配慮した公園が整備されています。
- 飛鳥山 3 つの博物館や田端文士村記念館、(仮称) 芥川龍之介記念館（2023 年開設予定）など、地域の歴史・文化を知ることのできる環境があります。
- 江戸時代末期に江戸幕府が設けた漢方医学の医学校「医学館」の総裁を務めた多紀桂山一族の墓が城官寺にあり、都指定文化財となっています。
- 源義家、義綱、義光兄弟を祀っている平塚神社、俳人の正岡子規や陶芸家の板谷波山などの墓がある大龍寺など、まちの歴史を感じられる寺社があります。
- 近藤勇と多くのゆかりの隊士が祀られている近藤勇と新選組隊士供養塔が板橋駅前にあります。
- 西ケ原・栄町の総鎮守である七社神社、江戸六阿弥陀巡礼の四番目である與楽寺、赤紙仁王で知られる東覚寺、上田端村の鎮守であり鎌倉鶴ヶ岡八幡宮を勧請したとされる上田端八幡神社、富士塚が移築された田端八幡神社、江戸時代より紅葉の名所であった金剛寺など、古くから親しまれてきた多くの寺社があります。
- 日光御成道の日本橋から二里目の塚であり、当時の位置を保っている 23 区内でも貴重な西ケ原一里塚があります。
- 国の重要文化財となっている旧醸造試験所第一工場[※]などの産業遺産もあり、歴史的資源に恵まれています。



旧醸造試験所

人と人のつながり

- 地区内に多くの公園があり、また、駅に近接して地域医療拠点を担う大規模病院が立地しているなど、安心して子育てできる環境が整っています。
- 2012 年に移転してきた東京国際フランス学園と地域の間では、多文化交流が図られています。

(2) まちづくりの課題

- ・歴史的な公園・庭園、防災に配慮した公園、石神井川などの水辺や緑地の保全を図るとともに、木造住宅密集地域では身近な公園・緑地が不足していることから、その整備が求められています。
- ・田端文士芸術家村などの歴史・文化資源や産業の歴史を次世代に継承するとともに、地域資源として保全・活用し、地域のにぎわいづくりを進めることが求められています。
- ・商店街においては、空き店舗の活用などによりにぎわいの維持・活性化を図るとともに、地域の交流の場としていくことが求められています。
- ・西ヶ原や滝野川などの木造住宅密集地域では、都市計画道路や生活道路の整備、オープンスペースの確保、老朽建築物の更新などによる防災まちづくりが求められています。

(3) まちの将来像

ゆとりのある住環境と豊かな文化・自然に恵まれたまち 「滝野川西」

～・～・将来像の解説・～・～

- ・鉄道駅周辺などでは隣接区と一体となったまちづくりを進め、生活利便施設を誘導しつつ、木造住宅密集地域の住環境を向上させ、都心への近接性を活かした利便性の高い安全な市街地の形成を図ります。
- ・飛鳥山公園や旧古河庭園などの文化資源と調和したまちづくりを進めることで、文化・自然を感じられるゆとりある市街地の形成を図ります。

(4) 取組方針

◆土地利用

■田端駅周辺のまちづくりの推進

- ・地区計画などに基づき、適切な土地の高度利用を促進するとともに、商業・業務機能の集積を促進し、都市中心拠点としてふさわしい活気ある良好な市街地の形成を図ります。
- ・土地区画整理事業の計画が残っている地域では、まちづくりの手法や未整備の都市計画公園の配置などを検討します。

■板橋駅周辺のまちづくりの推進

- ・板橋駅西口地区のまちづくりとの連携を図りながら、生活利便施設の立地を誘導するとともに、鉄道駅の利便性、安全性の向上を進め、東西一体的なにぎわいのある拠点の形成を図ります。

■駒込駅周辺のまちづくりの推進

- ・豊島区と連携を図りながら、生活利便施設の立地を誘導することで、持続的な生活を支える地区連携拠点の形成を図ります。

■西ヶ原地区における良好な土地利用の誘導

- ・西ヶ原地区においては、地区計画に基づき、適切な土地利用を誘導するとともに防災まちづくりを推進し、安全性の高いにぎわいのある市街地の形成を図ります。



西ヶ原みんなの公園

◇おでかけ環境

■上中里駅の交通結節機能の向上

- ・隣接する道路の拡幅整備などを契機とした交通結節機能の向上を図ります。

■道路整備の推進

- ・補助 81 号線、補助 92 号線、補助 181 号線などの道路整備を推進し、快適で利便性の高い交通環境の形成を図ります。

■総合的な駐輪対策の推進

- ・田端駅や板橋駅、駒込駅、上中里駅周辺においては、民間事業者などと協力しながら、誰もが利用しやすい駐輪場の整備など駐輪対策を促進することで、快適な自転車利用環境の形成を図ります。

■ 鉄道駅周辺のバリアフリー化

- ・ 田端駅、駒込駅、板橋駅周辺や滝野川桜通りにおいては、鉄道駅のバリアフリー化を促進するとともに、鉄道駅周辺の道路環境のバリアフリー化も進め、安全で快適に利用できる交通環境の形成を図ります。

◇ 交流を育む魅力

■ みどりと歴史・文化を継承する公園の整備・更新の推進

- ・ 渋沢栄一翁にゆかりの深い飛鳥山公園の整備・更新を推進するとともに、醸造試験所跡地公園周辺の魅力化を図ることで、みどりと歴史・文化を継承する環境の保全・形成を図り、（仮称）滝野川三丁目公園の新設整備では、多様な利用の場として地域のコミュニティの活性化を図ります。

■ 旧古河庭園周辺地区の良好なまちなみの保全・形成

- ・ 景観形成重点地区である旧古河庭園周辺地区では、北区景観づくり計画の景観形成基準に基づき、良好な住環境の保全を促進するとともに、さらなる魅力の向上を図ります。
- ・ 高度地区※に基づき、建物高さについて規制・誘導を進めることで、旧古河庭園からの眺望の保全を図ります。



旧古河庭園

■ 飛鳥山公園周辺の良好なまちなみの保全・形成

- ・ 北区を代表する景観資源である飛鳥山公園周辺においては、近接する崖線緑地や石神井川などとの連続性を確保するとともに、都市中心拠点である王子駅周辺のにぎわいと調和したまちなみの形成を図ります。



飛鳥山公園

■ 田端文士芸術家村の歴史を継承するまちづくり

- ・ 当時の面影を残したまちなみの保全・形成を図ります。
- ・ 田端文士芸術家村の中心的な人物である芥川龍之介の業績を顕彰する（仮称）芥川龍之介記念館の整備を推進します。

■ 石神井川の遊歩道の整備の推進

- ・ 石神井川の水辺環境を保全するとともに、遊歩道の整備を推進することで、王子駅を中心とした快適な散策ネットワークの形成を図ります。

■ 東京さくらトラム（都電荒川線）沿線の緑化

- ・ 東京さくらトラム（都電荒川線）沿線の緑化などを促進することで、四季が感じられ、車両の映えるまちなみの保全・形成を図ります。

◇住環境

■高齢者も安心して生活できる住環境の整備

- ・区営シルバーピアの建設を推進するとともに、良好な住宅ストックの有効活用や適切な維持管理、防災・防犯性の向上など、高齢者も安心して生活できる住環境の形成を図ります。

■無電柱化事業の推進

- ・補助 181 号線の整備などにあわせた無電柱化を推進し、沿道の建物や街路樹が映えるまちなみを創出します。

■田端二丁目周辺における良好な土地利用の誘導

- ・田端二丁目周辺地区地区計画に基づく適切な土地利用を誘導し、かつての田端文芸芸術家村の面影を残すみどり豊かなうるおいのある良好な住宅地の形成を図ります。

◇環境共生

■石神井川の水質保全

- ・石神井川の水質保全やみどりの適切な維持管理を進め、生物多様性に配慮した水辺空間・親水空間の保全を進めます。

■水辺・みどりの保全によるヒートアイランド現象の緩和

- ・石神井川などの水辺や緑地の保全・創出を進めるとともに、沿川における緑陰を確保することでヒートアイランド現象を緩和し、環境と共生した市街地の形成を図ります。

◇災害対応

■西ヶ原地区の防災まちづくりの推進

- ・木造住宅密集地域においては、建築物の不燃化・耐震化を促進し、安全な市街地の形成を図ります。

■補助 81 号線の整備

- ・延焼遮断帯の形成、災害時における安全な避難路の確保及び緊急車両の通路確保により、救助・救援活動などを円滑に行えるようにするため整備を促進します。
- ・道路事業にあわせて、都市防災不燃化促進事業などによる沿道の不燃化を促進し、延焼遮断帯の形成を進めます。

■避難路・輸送路の確保

- ・補助 181 号線の整備にあわせた無電柱化を推進し、災害時の避難・救護活動を遮らない安全な市街地の形成を図ります。
- ・緊急輸送道路沿道における建築物の耐震化を促進し、緊急輸送道路ネットワークの確保を図ります。



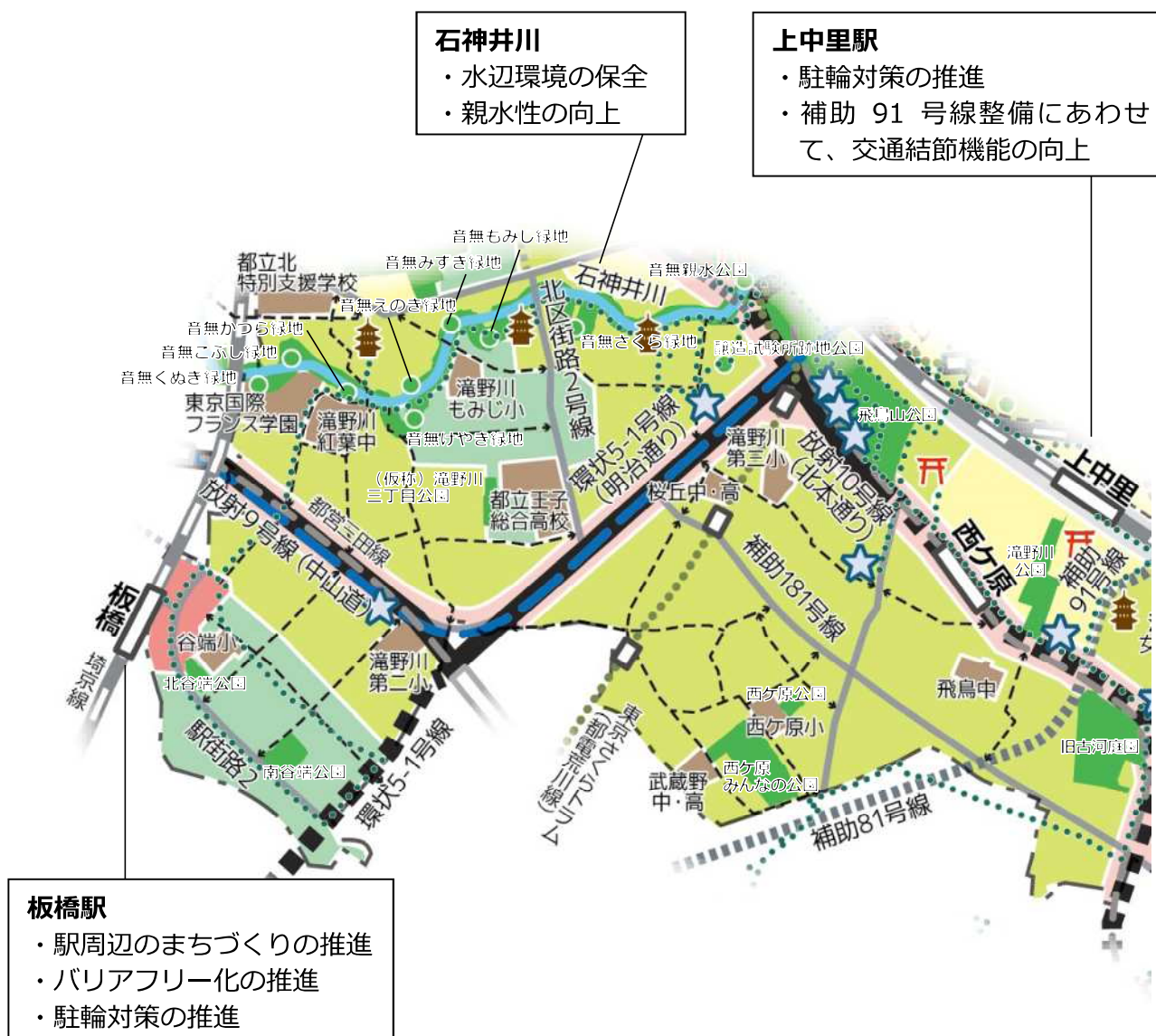
崖線と鉄道の風景

滝野川西地区まちづくり方針図

【将来像】

ゆとりのある住環境と豊かな文化・自然に恵まれたまち

「滝野川西」



凡 例

土地利用

- 都市機能集積ゾーン
- 居住ゾーン（中高層）
- 複合共生ゾーン
- 居住ゾーン（低中層）
- 幹線道路沿道ゾーン
- 教育施設
- その他

鉄道

- JR
- 東京メトロ・都営地下鉄・日暮里舎人ライナー
- 東京さくらトラム（都電荒川線）

道路

- 完成・事業中 未整備
- 主要幹線道路
- 幹線道路
- 地区幹線道路
- 主要生活道路
- 首都高速道路

地域資源

- 文化・社会教育施設
- 寺院
- 神社
- 公園・緑地（都市計画含む）
- 水辺空間
- 散策のネットワーク

取組方針

◆土地利用

- 田端駅周辺のまちづくりの推進
- 板橋駅周辺のまちづくりの推進
- 駒込駅周辺のまちづくりの推進
- 西ヶ原地区における良好な土地利用の誘導

◇おでかけ環境

- 上中里駅の交通結節機能の向上
- 道路整備の推進
- 総合的な駐輪対策の推進
- 鉄道駅周辺のバリアフリー化

◇交流を育む魅力

- みどりと歴史・文化を継承する公園の整備・更新の推進
- 旧古河庭園周辺地区の良好なまちなみの保全・形成
- 飛鳥山公園周辺の良好なまちなみの保全・形成
- 田端文士芸術家村の歴史を継承するまちづくり
- 石神井川の遊歩道の整備の推進
- 東京さくらトラム（都電荒川線）沿線の緑化

◆住環境

- 高齢者も安心して生活できる住環境の整備
- 無電柱化事業の推進
- 田端二丁目周辺における良好な土地利用の誘導

◇環境共生

- 石神井川の環境保全
- 水辺・みどりの保全によるヒートアイランド現象の緩和

◆災害対応

- 西ヶ原地区の防災まちづくりの推進
- 補助 81 号線の整備
- 避難路・輸送路の確保



田端駅

- ・ 駅周辺のまちづくりの推進
- ・ バリアフリー化の推進
- ・ 駐輪対策の推進

駒込駅

- ・ 駅周辺のまちづくりの推進
- ・ バリアフリー化の推進
- ・ 駐輪対策の推進



